

第4回大川フォーラム

大川活用プロジェクトの到達点と今後の展開



美崎全景



流しそうめん
平成 26 年度 夏休み自由研究室

守山市美崎自治会館

平成 27 年 2 月 7 日 (土) 13:30~16:30

主催：大川活用プロジェクト

美崎自治会、守山市、立命館守山高等学校、京都大学
（生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所）

平成 26 年度 大川活用プロジェクト活動報告書

美崎自治会、守山市、立命館守山高等学校、

京都大学（生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所）、

京都大学 地の拠点事業（KYOTO未来創造拠点整備事業－社会変革期を担う人材育成）

目 次

	頁
第4回大川フォーラムの開催にあたって	大川活用プロジェクト 1
第一部 報告	
1 「平成26年度 夏休み大川自由研究室」の開催	大川自然博物館研究会代表 3
夏休み大川自由研究室に参加して	速野小学校 中嶋茉海、山田瑞萌 10
2 大川の水質改善への取り組み	立命館守山高等学校サイテック部 13 小西祥太、黒田恵里奈、佐々木桃、川口裕司
3 速野幼稚園 今年度の取り組み	速野幼稚園 35
4 取り組みの総括と今後の展開	美崎自治会 43
5 守山まるごと活性化の取り組み	守山市 51
6 各活動報告に関する所感講話	高谷好一 京都大学名誉教授 57
第二部 パネルディスカッション	
第4回大川フォーラム（パネルディスカッション） 議事録	59
・パネラー 濱野優貴 立命館高校サイテック部員 高谷好一 京都大学名誉教授 山本富夫 速野学区ふるさとづくり委員長 宮本和宏 守山市長 伊藤潔 美崎自治会長	
・コーディネーター 安藤和雄 京都大学東南アジア研究所	
巻末資料	
1 平成26年度取り組み計画	63
2 「夏休み大川自由研究室」	64
3 大川等整備の次の一歩に向けて	68
4 水質データ	70
5 『美崎寄り合い』開催状況と会議録	78
6 大川フォーラムアンケート用紙	89
7 大川フォーラムアンケート結果	90
8 第4回大川フォーラム 開催要項	93
9 第4回大川フォーラム チラシ	94

第4回大川フォーラムの開催にあたって

大川活用プロジェクトを代表しましてご挨拶を申し上げます。

まずは、皆さん方にはお忙しい中「第4回大川フォーラム」のご参加をいただき、厚くお礼を申し上げます。この後4時30分までの少し長い時間になりますが、最後までお付き合いをいただければ大変ありがたく存じます。

ところで今回のフォーラムは「大川活用プロジェクトの到達点と今後の展開」をテーマにしました。これは、大川の取り組みが4年を経過することになりますことから、このあたりでこれまでの取り組みを総括し、また今後の進め方について皆さん方のご意見をおききしたいとの趣旨で設定をいたしました。

また、その際、外部の専門的な知見からのご意見をお聞きすることがより議論を深めることになるとの思いから、今回は特に京大名誉教授の高谷好一先生からコメントをいただくとともに、ディスカッションには速野ふるさと委員会委員長の山本富夫先生に加わっていただくことにしました。お二人はそれぞれ開発と大曲にお住まいでもあり地域事情に精通されておりますことから、多面的なご意見がお聞きできるものと考えており、皆さんも楽しみしていただきたいと思っております。

なお申し上げましたように今日のフォーラムは少し長いことから美崎の女性グループの皆さんに甘酒の接待の準備をしていただいております。休憩時間にホッと一息を入れていただけるのではないかと思います。また自治会では「とっておきの美崎」と名付けまして今の美崎を写真で残す取り組みを始めることにしていますが、今年は試みで提供いただいた写真を二階ロビーや階段の踊り場には展示しました。お帰りの際には是非ご覧ください。

それでは、今日のフォーラムが皆さんにとりまして有意義なものとなりますことをご祈念申し上げて開会のご挨拶といたします。

大川活用プロジェクト 伊藤潔

「平成 26 年度 夏休み大川自由研究室」の開催

大川自然博物館研究会代表

1




大川自然博物館研究会の永井です。
今年で2回目になります、夏休み自由研究室のご報告をさせていただきます。

2


大川自然博物館研究会について

私どもの研究会は多くの自然が残されている大川周辺を活動場所とし、子供たちが自然に触れ、親しみ、いろいろな体験を通じて楽しく学び様々な人と交流する機会を提供するとともに、自然資産の資料を編纂・発行する事を目的としています。



《大川寄合》の開催(毎月第4火曜日)

誰でもどんな事でも気軽に話し合い出来る様に《大川寄合》と名付け、夏休み自由研究室・大川フォーラム・美崎百科の発行等の企画検討をしています。



メンバーは
美崎自治会・大川委員会・京大の安藤先生・守山市・立命館
守山高校の八木先生
美崎公園・速野幼稚園の園長先生 約20名

大川寄合の様子

まず初めに『大川自然博物館研究会』について触れさせていただきます。私どもの研究会は多くの自然が残されている大川周辺を主な活動場所とし、子供たちが自然に触れ、親しみ、いろいろな体験を通じて楽しく学び、様々な人と交流する機会を提供するとともに、自然資産の資料を編纂・発行する事を目的としています。
下の写真は《大川寄合》の様子です。ここでは、誰でも・どんな事でも気軽に話し合いが出来る様に《大川寄合》と名付け、メンバーそれぞれから色々なアイデアを出し合い「夏休み自由研究室」・「大川フォーラム」・「美崎百科」の発行など、企画検討をしています。メンバーはこの様な方々です。

3

夏休み自由研究室開催 [平成26年8月5日]

- 昨年度に続き2回目の『夏休み大川自由研究室』を8月5日(火)開催致しました。今年是他所の色々な行事の関係で、平日の開催となり、参加者、ボランティア等心配しておりましたが、当自治会以外から30数名を含み総勢70名を超える子供たちが来てくれ、ボランティアの人達も多数集まって頂き昨年以上に賑やかに開催出来ました。

夏休み自由研究室の概要

- 前年度と同様参加児童を3グループに分け体験学習
 - ◎ 5・6年生 琵琶湖で漁船に乗って漁の体験
 - ◎ 3・4年生 大川で屋形船に乗って昔ながらの漁の体験
 - ◎ 1・2年生 & 幼稚園児 近くの野菜畑で夏野菜の収穫
- 大川周辺の竹で作った玩具で遊ぶ
- 昼食タイムは大人気の流しソーメンと川魚料理
- 座学 バングラディッシュのベンガルカレーと日本のカレーの食べ比べ

それでは、『夏休み自由研究室』についてご報告致します。
昨年度に続き2回目となりました『夏休み自由研究室』を8月5日火曜日に開催致しました。
今年例えば、「木浜漁港の港祭り」など他の所の行事があり、平日の開催となり、子供たちの参加者やボランティアの集まりなど心配しておりましたが、美崎地区以外から30名を超える子供たちの参加者があり、総勢70名を超え、ボランティアの人達も大勢集まって頂き、去年より賑やかに開催する事が出来ました。
研究室の概要ですが、前年度と同じく参加児童を3グループに分け体験学習を行いました。5・6年生のグループはピエリ横の守山漁港からから漁船に乗り、琵琶湖での漁業体験、3・4年生のグループは自治会館横から屋形船に乗って、大川で昔ながらの漁業の体験、1・2年生と幼稚園児は近くの野菜畑で夏野菜の収穫をしました。
それぞれのグループに分かれ、体験学習から帰ってくると、大川周辺の竹で作ったおもちゃで遊んだり、獲れた魚の名前を教えてもらったりしました。
昼食タイムはみんなが楽しみの大人気な流しソーメンでした、みなさんに作って頂いた川魚料理もありました。
昼食タイムのあとはこの自治会館の二階で京大の安藤先生と一緒に参加していたバングラディッシュの人達が作ってくれた本格的なベンガルカレーと日本のカレーの食べ比べを致しました。

4



それではまず準備作業です、前日に暑い中早朝より大勢のボランティアの人達にお世話になり 流しソーメンの準備など大勢の方に御尽力頂きました。また今年は三つの水槽に琵琶湖の魚を多数用意して頂き子供たちに自由に触って貰うことにしました。

また、1・2年生と幼稚園児が野菜畑で夏野菜の収穫のあと迷路で遊べる様に、一か月前に休耕地に緑肥用の種を植え付けました、これは成長が早く一か月で一メートルになる予定でしたが残念ながら土地に肥料分が全くなき殆ど生育せず失敗におわりました。

5



当日の朝です、受付で名前の確認し、今日の体験学習で気が付いた事等を書き留めるメモ帳と筆記具を受け取ります。子供たちが揃うと、オープニングセレモニーです。その日のスケジュール・注意事項を聞きます、また宮本市長もお見えになり、ご挨拶して頂きました。

オープニングセレモニーが終わると、それぞれのグループに分かれ、体験学習へ出発です。

6



5・6年生のグループの琵琶湖で漁の体験の様子です。守山漁港から漁船に乗って琵琶湖へ出ます。

琵琶湖では、一週間以上前から仕掛けて頂いていた漁具を引き揚げていきます、その漁具の説明や獲れた魚の名前など漁師さんから真剣に聞いていました。

7



こちらは、3・4年生のグループの写真です、自治会所有の屋形船に自治会館横の船着場から出発し、大川でもボランティアの人達が前もって沈めて頂いた仕掛けを揚げて行きました。

浸け柴漁やエビ籠・刺し網漁など体験出来ました。

8



次に1・2年生と幼稚園児のグループです、暑い中それぞれレジ袋を持って、お母さん達と近くの畑へ歩いて行きます。キュウリ、ピーマン、トウガラシ、トマト、トウモロコシなど、みんな楽しく収穫していました。帰り道は収穫した野菜が大変重そうでした。

9



体験学習から帰ってくると、みんなで竹で作ったおもちゃで遊びます、今年はボランティアの人達が早くから、沢山用意して頂き存分に遊ぶことが出来ました。

次は、みんなが楽しみに待っている昼食タイムです、今年も大人気の流しソーメンでした、まず器にソーメンつゆと薬味とお箸を受け取り、3本の竹樋に多くの子供たちが群がって楽しく食べました。ずいぶん沢山食べ追加でソーメンを湯がきました。また、幼稚園児など小さい子供たちはお母さんと一緒にテーブル流しソーメン機で部屋の中で食べていました。ここでも本当に楽しそうでした。

10

◎座学 ベンガルカレーと日本のカレーの食べ比べ



バン格拉デシュの話聞く

バングラデシュの話

バンガルカレーの味は？

バンガルカレー

バンガルカレー



昨年ミャンマーの人達から、生活や食の文化をプロジェクトの写真をしながら話を聞きました。今年バングラデシュの人達から話を聞き、また彼等が作った本場のカレーの味に挑戦しました。

昼食後は全員、自治会館の二階に集まり、バングラデシュの人から話を聞き、彼等が作った本場のベンガルカレーと日本のカレーの食べ比べです。

香辛料がしっかり聞いたベンガルカレーは子供たちが食べる事が出来るか、心配しておりましたが、結構みんな食べていました。中には美味しいとおかわりしている子供もいました。


11

事業実施による期待される効果

- ◎今年も参加した子供たちが、大川周辺の自然や生活について学ぶ機会を提供する事が出来た。又色々な体験や収穫の楽しみを通じて地域活性化の促進が図れた。
- ◎大川とその周辺に住んでいる生物に触れ、その情報も収集する事が出来た。
- ◎今年で2回目となり他の地域から大勢の子供たちの参加があり、より多くの出会い・より広く交流が図れた、同時に範囲を広げた情報の発信が出来る様になりました。

今後の取り組み

更に事業の充実を図り、子供たちの成長に寄与出来る様にする。
 地域の情報の収集とそれを広く発信する。
 地域の魅力を高め、活性化につなげる。



以上が『夏休み自由研究室』のご報告です、終わりにこの事業により期待される効果ですが

一つ目は今年も参加してくれた子供たちが、大川周辺の自然や生活について学ぶ機会を提供することが出来た、又色々な体験や収穫の楽しみを通して地域活性化の促進が図れました。

二つ目は大川とその周辺に住んでいる生物に触れ、その情報も収集する事が出来ました。

三つ目として今年で2回目となり他の地域から大勢の子供たちの参加があり、より多くの出会い、又より広く交流が図れましたし、同時に範囲を広げた情報の発信ができたと思います。

今後の取り組みと致しまして、更に事業の充実を図り、子供たちの成長に寄与出来る様にする。地域の情報の収集とそれを広く発信する。地域の魅力を高め、活性化につなげる。

こんな事を考えながら今後も活動して行きたいと思っています。

12

『平成26年度 夏休み大川自由研究室』事業報告

ご清聴ありがとうございました。

平成27年 2月 7日

大川自然博物館研究会

以上で平成26年度の『夏休み大川自由研究室』のご報告を終わります、ありがとうございました。

「夏休み大川自由研究室」の報告（1）

子ども代表

夏休み大川自由研究室に参加して

◎琵琶湖に出て感じた事

- ・初めて漁船に乗って琵琶湖に出ました。
色々なしなかけで魚やエビなどが入っていたので、おどろきました。
とくに、ウナギがとれたので、楽しかったです。
- ・その他の体験について
四年生の弟は大川で船に乗り、色々なしなかけで色々な魚がとれたのが、うれしかったと言っていました。
二年生の妹は、畑に野菜をとりに行って、おいしそう野菜が沢山とれたので喜んでいました。

◎自治会館で感じた事

- ・ベンガルの人の話を聞いたり、
カレーライスを食べたりして、楽しかったです。
- ・流しそうめんがトマトが流れてきたので、楽しかったです。
- ・竹細工や魚の説明なども楽しかったです。

弟と妹がまた参加したいと言っていました。

速野小学校 6年 中嶋 菜海

夏休み大川自由研究室に参加して

◎琵琶湖に出て感じた事

- ・初めて漁船に乗って琵琶湖に出ました。
色々なしなかけで魚やエビなどが入っていたので、おどろきました。
とくに、ウナギがとれたので、楽しかったです。
- ・その他の体験について
四年生の弟は大川で船に乗り、色々なしなかけで、
色々な魚がとれたのが、うれしかったと言いました。
二年生の妹は、畑に野菜をとりに行って、
おいしそう野菜が沢山とれたので喜んでいました。

◎自治会館で感じた事

- ・ベンガルの人の話を聞いたり、
カレーライスを食べたりして、楽しかったです。
- ・流しそうめんがトマトが流れてきたので、楽しかったです。
- ・竹細工や魚の説明なども楽しかったです。

弟と妹がまた参加したいと言っていました。

速野小学校 6年 中嶋 菜海

「夏休み大川自由研究室」の報告（2）

子ども代表

夏休み大川自由研究室に参加して

船に乗って琵琶湖に出たり、流しそうめんをしたり、竹細工で遊ぶなどの色々な体験をさせていただきました。これは、その時にいただいたものです。本当に楽しい一日でした。その中から、特に楽しかったことと、夏休み大川自由研究会で学べたことについて紹介します。特に楽しかったことは、船に乗って琵琶湖に出られたことです。初めて漁の体験をさせていただきました。漁の方法を学びました。

夏休み大川自由研究会で学べたことは2つあります。1つ目は、バンラデシュの方々が来て下さり、国の文化を学べたことです。実際に、日本のカレーとはちがいが、どろどろしていないカレーをいただきました。2つ目は、大川についてです。立命館高校のお兄さんが、大川の自然環境についてくわしく説明して下さいました。昔はすき通るようなきれいな水だったが、今は、にごってきた水になっているということを知りました。また、私のおじいさんや近所のおばさんから、昔は大川で洗たくをしたり、夏には泳いだりしていたことも学びました。私はこの話を聞いて、近い将来に洗たくができたり、夏には泳げたりする大川になってほしいと思いました。このことから、来年もぜひ開催してほしいと思います。

速野小学校6年 山田端萌

〈夏休み大川自由研究会に参加して〉
船に乗って琵琶湖に出たり、流しそうめんをしたり、竹細工で遊ぶなどの色々な体験をさせていただきました。これは、その時にいただいたものです。本当に楽しい一日でした。その中から、特に楽しかったことと、夏休み大川自由研究会で学べたことについて紹介します。特に楽しかったことは、船に乗って琵琶湖に出られたことです。初めて漁の体験をさせていただきました。漁の方法を学びました。
夏休み大川自由研究会で学べたことは2つあります。1つ目は、バンラデシュの方々が来て下さり、国の文化を学べたことです。実際に、日本のカレーとはちがいが、どろどろしていないカレーをいただきました。2つ目は、大川についてです。立命館高校のお兄さんが、大川の自然環境についてくわしく説明して下さいました。昔はすき通るようなきれいな水だったが、今は、にごってきた水になっているということを知りました。また、私のおじいさんや近所のおばさんから、昔は大川で洗たくをしたり、夏には泳いだりしていたことも学びました。私はこの話を聞いて、近い将来に洗たくができたり、夏には泳げたりする大川になってほしいと思いました。このことから、来年もぜひ開催してほしいと思います。

速野小学校6年 山田端萌

大川の水質改善への取り組み

立命館守山高等学校サイテック部

1



立命館守山高校サイテック部の、これまでの取り組みについて、プレゼンテーションを始めます。

今回のプレゼンテーションは、3つのトピックに分かれています。

1つ目は「前回までのまとめ」、2つ目は「今年度の取り組み」、3つ目は「大川の水質と今後の改善の方向」についてです。

本題に入る前に、サイテック部の紹介をさせていただきます。

2



サイテック部は立命館守山高校が開校された翌年の2006年に創部され物理工学班10名と生物化学班8名で活動しています。

大川での取組は生物化学班が取り組んでいます。

この大川フォーラムにも毎回参加し、発表させていただいております。また、「夏休み大川自由研究室」での記録係や「子ども大川環境学習会」の講師として関わってきました。

3



上の写真は、昨年度の8月に行った「水環境研究活動交流会」での集合写真です。2日目にこの美崎自治会館で、参加校による地域での水環境改善の取組について発表し、意見交換を行いました。

下の写真は、今年度の8月に行った「Aquatic Environment Forum 2014」での集合写真です。海外から5校32名、国内から5校24名を迎えて、琵琶湖での湖上実習と参加校の研究発表を英語で行い、大川活用プロジェクトでの取組もここで報告しました。これからも、この取組を積極的に発信していきたいと思えます。

4

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

大川の水質の課題

①溶存酸素が少ないこと

これが少ないと、いろいろな生物がすめません

②水中の有機物が多いこと

有機物を分解するのに、酸素が必要なので、溶存酸素の減少に拍車をかけてしまいます

まず、大川の水質の課題はまず第一に、溶存酸素が少ないことです。これが少ないといろいろな生物がすむことはできません。

第2に、水中の有機物が多いことです。水中の有機物は、水中の微生物に栄養として吸収され、酸素呼吸によって無機物に分解されるため有機物が多いと、水中の酸素が減り、溶存酸素の減少に拍車をかけてしまいます。

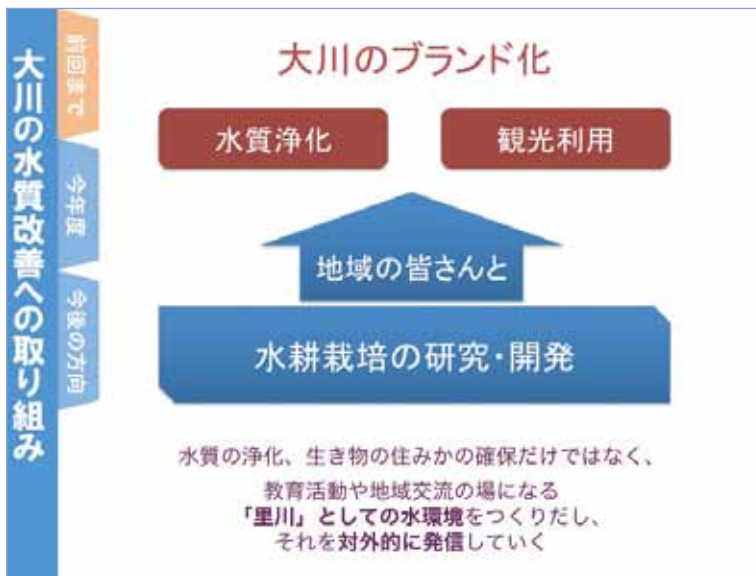
こうした大川の課題を解決するために私たちは、水耕栽培を活用しよう取り組みました。

5



水耕栽培とは土壌を使わず、水上で植物を育てる栽培方法のことです。図のように、水上にプランターのような浮島を浮かべて、植物の成長過程で水質を悪化させる物質を吸収します。

6



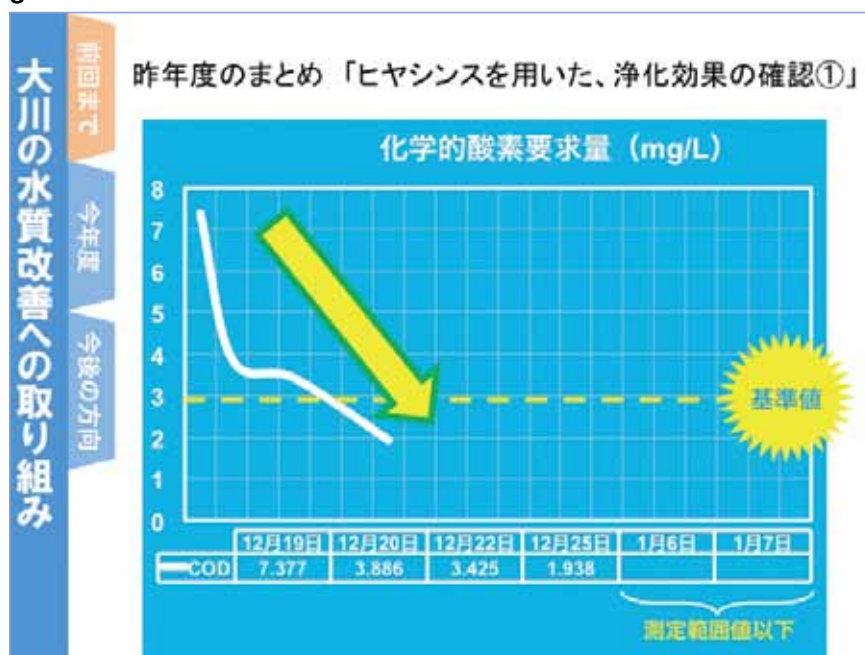
さて、私たちは昨年度「大川のブランド化」を提案しました。大川活用プロジェクトは、ただ川をきれいにすることだけが目的ではありません。大川を里川として人々が集える川にすることが目的です。そして、大川をPRして、多くの人々に知ってもらう必要があると思います。そこで、大川の「水質の浄化」だけでなく「観光利用」にもつながる方法はないかと考えました。そして、「地域の皆さんとともにとりくめる水耕栽培の研究」をテーマに取り組むことにしました。そのために、簡単に水耕栽培ができるように、発泡スチロールの板を活用することにしました。花を育てると、季節が来れば水上に花が咲き、観光客が訪れるのではないのでしょうか。こうした取組がきっかけになって、教育活動や地域交流の場ができないだろうか。そして、「里川」としての水環境を作り出して対外的に発信していければいいのではないかと思います。

7



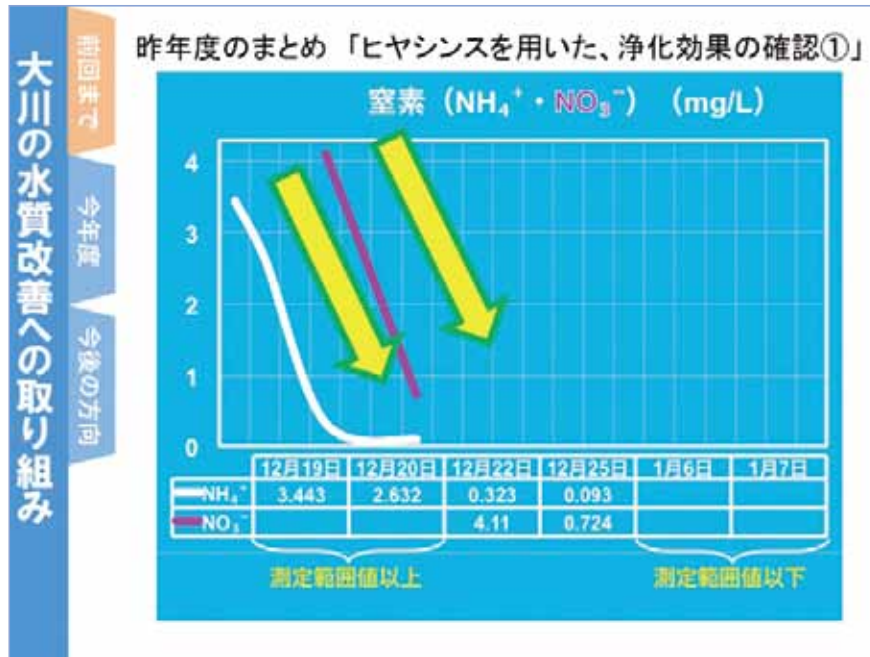
昨年度ははじめに、写真のように、ヒヤシンスを使って水質の浄化効果の確認実験をしました。

8



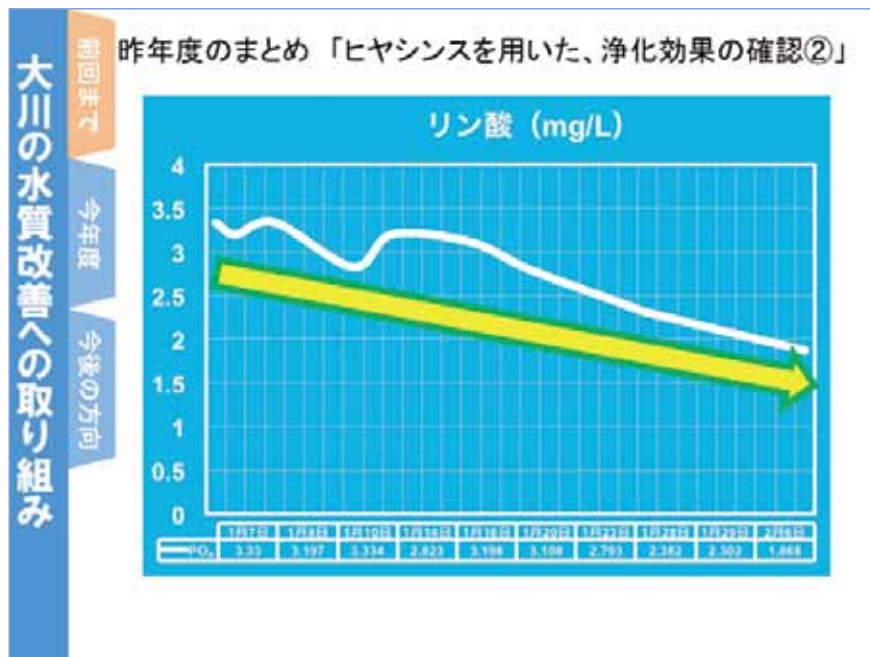
これは水中の有機物の量を示す「化学的酸素要求量」の変化です。「化学的酸素要求量」が少ないほど、水中の有機物は少ないことを意味します。見ていただいたらわかるように、1週間と立たないうちに、大きく減少したことがわかります。ヒヤシンスには、有機物を吸収する効果があることがわかりました。

9



これは水中の窒素の量の変化です。
ヒヤシンスには窒素を吸収する効果も持っていることがわかりました。

10



これは水中のリン酸イオン濃度の変化です。
ヒヤシンスには、水中の有機物、窒素、りんを吸収し、水質の浄化効果があることがわかりました。

11

大川の水質改善への取り組み

前回まで

今年度

今後の方向

実験Ⅰ
**「大川での野外実験
 (実用化に向けて①)」**

実験Ⅱ
**「新しい浮島を用いた野外実験
 (実用化に向けて②)」**

それでは、2つめのトピック。
 今年度の実験について述べていきたいと思います。
 実験は2つあります。
 1つ目はヒヤシンスには、浄化効果があったので、実用化に向けて行った、野外実験についてです。
 2つ目は、1つ目の実験から出てきた課題から、新しい構造の浮島を作り、行った野外実験についてです。

12

大川の水質改善への取り組み

前回まで

今年度

今後の方向

実験Ⅰ「大川での野外実験 (実用化に向けて)」



・漁業用網 ・仇

まず、実験Ⅰについてです。
 4月1日から7月5日にかけて、実際に大川に浮島を浮かべて、ちゃんと育つか、実験しました。2週に1度、大川に行って様子を観察しました。球根は季節を考えて、ハブランサスを用いました。
 この球根はサイズが小さいので、ペットボトルを半分に切り、上半分を逆さにして、発砲スチロール板に差し込みました。飲み口の部分に網を張り、球根を置いています。
 これで球根が穴から落ちてしまうことを防ぎました。
 今回使用した網は地元の漁師の方々からいただいたものです。
 前回の実験で、途中で倒れてしまうケースがあったので、割り箸と輪ゴムで支柱を作っています。

13

大川の水質改善への取り組み

前回まで
今年度
今後の方向

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
4月13日：変化はみられなかった




これは浮かべてから2週間が経過した4月13日の画像です。
この段階では、特に変化は見られませんでした。

14

大川の水質改善への取り組み

前回まで
今年度
今後の方向

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
4月26日：8つ中6つに発芽を確認



4月26日の調査では、8つ浮かべた浮島のうち、6つの発芽を確認しました。

15

大川の水質改善への取り組み

前年度
今年度
今後の方向

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
5月24日：草丈が15cmを超えた



続いて、5月10日には、草丈が10cm程度になり、成長を実感できるようになりました。

16

大川の水質改善への取り組み

前年度
今年度
今後の方向

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
5月24日：草丈が15cmを超えた



5月24日の調査では、草丈が15cmを超えるほどになり、しっかりと自立していることがわかりました。

17

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
6月8日：つぼみの確認



そして、6月8日の調査でつぼみを確認できました。

18

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
6月21日：3基が壊れていた



しかし、6月21日の調査では3基が壊れていました。

19

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
7月5日：6基が壊れていた



7月5日の調査では6基が壊れており、このままでは実験続行が難しいと判断し、実験を終了しました。
なぜ、壊れてしまったのでしょうか。

20

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
7月5日：6基が壊れていた



1つめは、気象要因。6月から7月にかけての激しい風と雨のためです。
浮島は、水位の変化や強風に耐えることができませんでした。

21

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」
7月5日：6基が壊れていた



2つめは、人為的要因。大川で釣りをしていた人に壊されたためです。実際、浮島の周囲を囲んでいた網が不自然に引き裂かれていました。また、そのネットにルアーが引っかかっていた。僕たちは、これが最大の要因と考えました。

22

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅰ「大川での野外実験（実用化に向けて）」

😊 大川での生育に成功した

😞 浮島に安定感が欠けていた

この実験によって大川での植物の生育を確認することが出来ました。

しかし、浮島に安定感が欠けていました。特に、気象要因や人為的要因に耐えられる浮島を作成する必要があります。

23

前回まで

今年度

今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅱ「新しい浮島を用いた生育の確認(野外実験)」



- ・発泡スチロール
- ・球根
- ・ペットボトル
- ・ひも

そこで、次の実験です。
 先ほどの課題から実用化に向けて、文化祭が終わった10月14日から新たな浮島で実験を行いました。
 根が張るまで屋内で、水の入った容器に浮かべて育てました。根が張ってから屋外で育て、大川に持って行くことにしました。
 この浮島は、実験1の気象要因や人為的要因でも壊れない浮島を目指しています。

24

前回まで

今年度

今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅱ「新しい浮島を用いた生育の確認(野外実験)」



まず、ペットボトルを切り分け、上半分を発泡スチロールに開けた穴に差し込み固定します。
 このときペットボトルに数箇所、小さい穴を開け、雨水がたまらないようにします。
 さらに、発泡スチロールの底に排水溝を作ります。
 それから、それぞれの浮島をビニールひもでつなぎます。
 最後に、ヒヤシンスの球根を置いて完成です。

25

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅱ「新しい浮島を用いた生育の確認(野外実験)」
10月21日:ペットボトルを設置した



これは浮かべてから1週間が経過した10月21日の画像です。
球根がしっかりと水につかっていなかったため、この日から水の入ったペットボトルを設置しました。

26

前回まで
今年度
今後の方向

大川の水質改善への取り組み

実験Ⅱ「新しい浮島を用いた生育の確認(野外実験)」
10月27日:根が出始めていた



10月27日の画像です。
このように根がで始めていました。

27



11月4日の画像です。
だいぶ根が伸びていました。

28



11月18日の画像です。
ついに発芽を確認しました。

29



そして、11月25日は十分に根が張っていました。
そこで、この日から浮島を屋外に移しました。

30



12月19日芽が発達したため、大川に浮島を設置しました。川岸から離すとルアーの目標にされやすくなるのではないかと考え、川岸に近い位置に設置することにしました。

31



そして、このような看板も設置し、どのような意図で実験をしているのかアピールし、つりをされる方への注意をうながしました。

32



浮かべてから約3週間ぶりの1月10日に浮島の様子を見に行きました。この3週間の間雪がたくさん降ったので、心配していたのですが、写真のように端の浮島が横転していました。

33



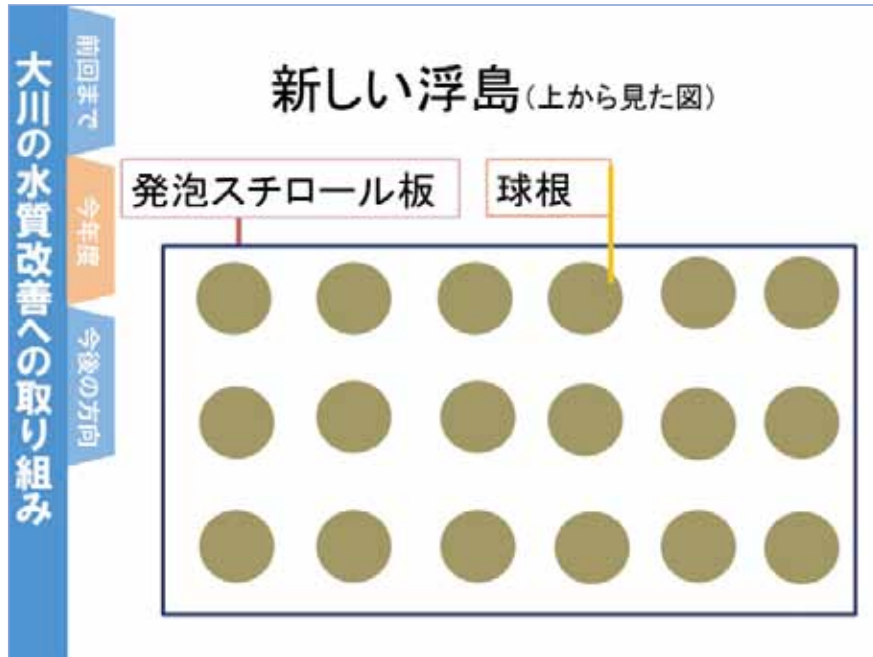
浮島をよく見ると、紐をくいの上に結んでしまったために、たるみができていました。そして今回使用した発砲スチロールは箱形であったため、風の影響を受けやすくなって横転したのではないかと考えられます。

34



そこで、杭を川底に向かって斜めにさして、ひものたるみをなくし、横転するリスクを減らしました。今も実験を継続していますが、また横転するリスクがあるため、また新しい構造が必要です。今回の実験では、安定の強化が必要ということで、箱形の発砲スチロールを使用しましたがそれが横転した原因となってしまいました。今後考えなければなりません。

35



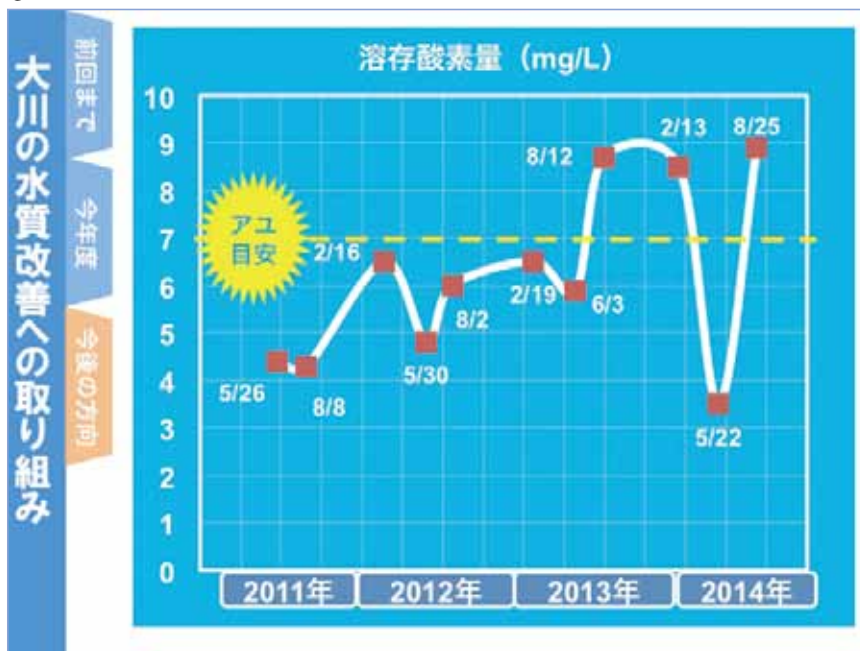
今後は、スライドの図のように1枚の発泡スチロールの板に多くの球根を安定的に生育させられるようにしていこうと思います。
 これまでに明らかになったことをまとめると、設置の際は設置場所は川岸に近いところにするまた、設置の目的がわかるようにするという事です。
 また、浮島の構造は風などで浮島や、発泡スチロール板の球根が横転しないように安定感のある構造にする。そして、球根が長時間水につかって腐らないようにすることです。
 地域の皆さんと楽しく大川を彩る日が来ることを目指してがんばりたいと思います。

36



それでは最後のトピックです。
 今回、大川の水質改善の方向を考えるために、守山市環境生活課からデータをいただき、2011年から2014年の大川の上流、つまり自治会館前の溶存酸素、化学的酸素要求量(水中の有機物の量)、リンの量、窒素の量の変化をまとめました。そこから、今後の水質改善の方向について考えてみたいと思います。

37

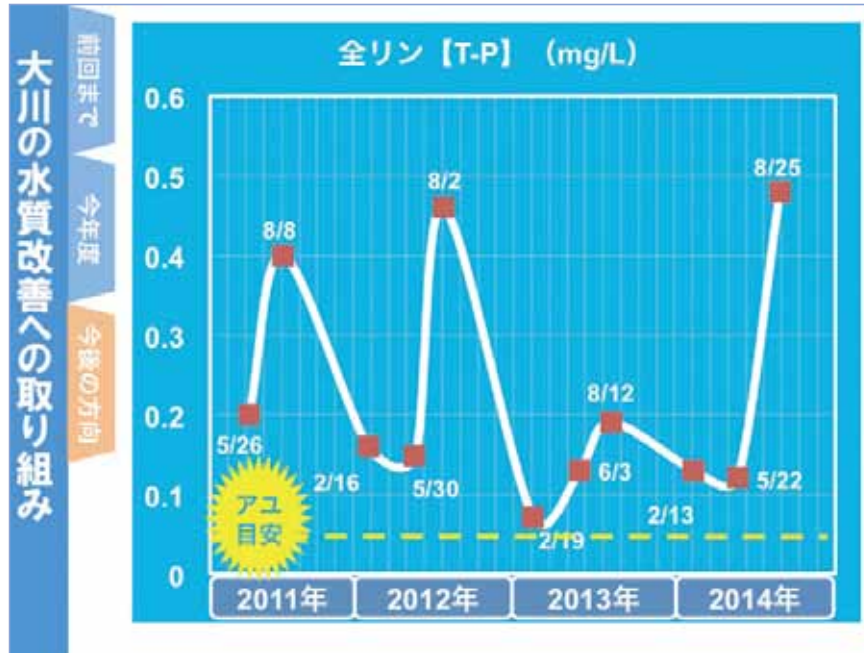


最初に溶存酸素量の変化です。溶存酸素は、水中に溶けている酸素の量で、多い方が生き物は住みやすくなります。7.0mg/Lが環境省が定める水産2級の基準で、アユなどの魚がすめる環境の目安です。グラフの変化を見ると、全体的に改善の傾向が見られますが、変化が大きくなっている状況が気になります。秋以降、大川に行くたびに溶存酸素を独自に測定していますが、基準値の7.0mg/Lを超えることはほとんどありません。

38



次に、水中の有機物の量を示す化学的酸素要求量の変化のグラフです。この値が大きいと、有機物がたくさん含まれていることになり、水質はよくないことを意味します。アユなどの魚がすめる環境基準値は3.0mg/L程度です。大川は常にそれを上回っています。わずかに減少傾向が見られますが、変動が大きく、注視する必要があります。水中の有機物の量は川底のヘドロの影響が考えられます。ヘドロは水草などが枯れてできた有機物と泥が混ざったものだからです。



3つめのグラフは「全リン」の変化です。全リンは水中の有機物に含まれるリンと無機物の状態のリンの合計を示したものです。河川には全リンの環境基準はありませんが、海や湖などにおけるサケやアユなどの魚を育てる目安（水産2種）は0.05 mg/L以下です。グラフを見ると、夏場を除けば、緩やかな減少傾向が見られます。夏に全リンの値が高いのは夏に川底の溶存酸素がほとんどなくなることと関係があります。水中のリン酸イオンは酸素があると水中の鉄イオンと一緒に川底の泥の中に沈殿します。しかし、夏になって、川底の溶存酸素がほとんどなくなると、泥の中に沈殿していた鉄イオンが溶け出し、そのときに一緒にリン酸イオンも出て来るからです。川底のヘドロを焼き固めて作ったヘドロセラミックで水質浄化を図ろうとしましたが、多量のリンが溶け出たということがありました。ですから、このリンは川底のヘドロに多く含まれていると考えられます。



最後のグラフは「全窒素」の変化です。全窒素は、全リンと同様に水中の有機物に含まれる窒素（主にタンパク質）と無機物の状態の窒素の合計を示したものです。全リンと同様に、河川には全窒素の環境基準はありませんが、海や湖におけるサケやアユなどの魚を育てる目安、つまり水産2種は0.6 mg/L以下です。グラフを見ると、全窒素ははっきりと減少傾向が見られます。これは、自治会の皆さんが水草を刈り取るようになって、枯れた水草から生じる窒素分が減少したことによると考えられます。しかし、川底のヘドロの中には、リンだけがよく含まれるとは考えにくいので、それ相応の窒素分が含まれているとみるべきではないかと思われれます。

41

大川の水質改善への取り組み

前回まで


今年度

今後の方向

大川の水質改善の方向

① 川底のヘドロの除去

- ・ヘドロの有効活用
- 肥料など



② 溶存酸素の増加

- ・水車、噴水など
- 電力はソーラーパネルなど
- ・導水などで大川に流れをつくる

今後の水質改善の方向についてです。
 僕たちは、現在水耕栽培について研究を進めています。しかし、大川全体の水質を良くする為に、水耕栽培の浄化効果だけでは限界があります。実際、水耕栽培だけでは溶存酸素を増やすことができません。
 大川の水質悪化の原因として考えられるのはヘドロです。ヘドロは先ほど話した通り、水中の有機物やリンの増加に大きな影響を与えていると考えられます。
 もしこのヘドロを有効活用できればいいと思いませんか？ヘドロからリンが出るとすれば、肥料として使えると思います。ヘドロを肥料として活用してとってあげれば、ヘドロが減って水質がよくなるのではないかと思います。
 また、溶存酸素を増やすために水車や、噴水などを設置できれば、増やすことができると思います。
 しかし、水車などを動かす際に電力が必要なため、ソーラーパネルを使用するなどしていかなければなりません。今後水耕栽培だけではなく、これらについても考えていこうと思います。

42

大川の水質改善への取り組み

参考文献

『エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化』
 島谷幸弘・細見正明・中村圭吾(2003年・ソフトサイエンス社)

『環境省・水質汚濁に係る環境基準について』
<http://www.env.go.jp/kijun/mizu.html>

『新編 湖沼調査法』
 西條八東・三田村緒佐武(1995年・講談社)

EICネット [環境用語集]
<http://www.eic.or.jp/ecoterm/>

参考文献は以下の通りです。

43



以上で発表を終わります。
ご静聴ありがとうございました。



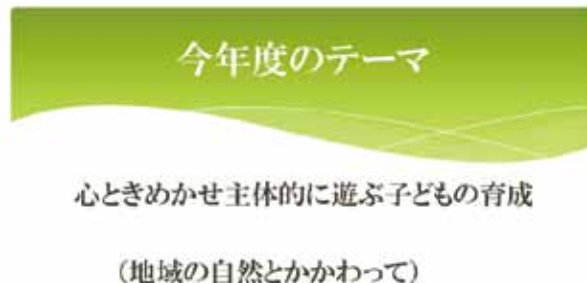
速野幼稚園 今年度の取り組み

速野幼稚園

1



2



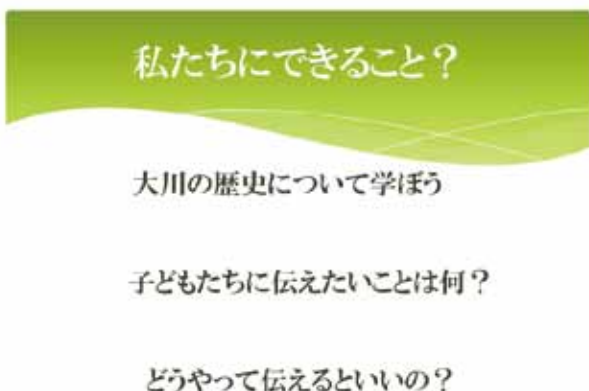
3



4



5



6



7



8



9

紙芝居の作成

- ストーリーを考える。
- スペシャリストに学ぶ
- 作成する。

10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



山に降った 雨のしずく 岩をすべり落ちて

20



やがて細い 川となった 川は 森で生まれた

21



川は だれのもの？ 住んでる 魚のものかしら？

22



それとも 雨のものかな？ 森の ものだらうか？

23



24



25



村を下り 町を流れ 川は ^{うみ}淡海を めざす

26



鳥があそぶ 虹がかかる 人の希望 燃えたつ

27



川は 誰のもの？ 岸辺の 緑のものかしら？

28



それとも 鳥のものかな？ 人のものだろうか？

29



いいえ どの川も 誰の ものでもありません

30



生きてるすべてのものです 川はみんなのもの

31



川は みんなのもの

32

地元を愛する心を育てる

大川プロジェクトの柱のひとつ

◎幼少期のワクワクする体験や、失敗した経験、
地域の人に支えられた記憶など・・

幼児・児童期の懐かしい思い出が、地元への
愛着に繋がる

33

これからも
よろしくお願ひします！

速野幼稚園の奥村さんの発表記録

皆様こんにちは 速野幼稚園の奥村でございます。

昨年度はこの場で 大川に期待することということで、幼稚園の紹介やこんな場所になったらいいのになあという思いを伝えさせていただきました。今回、この機会をいただき、この2年間、幼稚園が寄合に参加させていただいてきて、「じやあ私たちには何ができるか、何をすべきなのか」ということを考え、取り組んできた今年度のあしあとを紹介させていただくことにしました。

幼稚園では、昨年度に引き続き、人やものに自らかかわって、主体的に遊ぶ子どもに育ててほしいという重点目標をもち、保育の展開をしています。特に今年度は、その育つ姿を自然とのかかわりのなかから見ていこうというのが研究のテーマです。

地域の人やものとかかわりながら、さまざまな感動体験や感情体験を通して、自ら遊びを見つけ、夢中になって遊べる子どもを目指したいと考えました。

それぞれの学年の発達の違いもありますので、具体的に。

3歳児は、初めての集団での生活であり、まずは、園内の自然に目を向け、ダンゴ虫やアリ、ミミズなどの小さな生き物や草花、土や水に関心をもって、見たり触れたり試したりすることを大事にしようとするてきました。

4歳児は 身近な場所に繰り返し出かけ、自然の中で安心感や開放感をもって遊んだり、何も遊具のないところで遊び創造力を働かせて遊ぶ経験を積んだりする中で、自然の変化や季節の移り変わりに気づくことを大切にしてきました。

5歳児は、速野のよさを体で味わうことができるよう、歩いてあちらこちらにでかけ、自然の中で思い切り遊んだり、大切にされてきた文化財を見たり、そこで出会う人たちとふれあい、人と関わる心地よさを感じたりすることを大事にしてきました。歩いてこの大川付近を通り、みさき公園やなぎさ公園にでかけ、琵琶湖岸のごみを拾ったり、ニゴロブナの稚魚を放流させてもらったりという経験もこの中のひとつです。

自然とのかかわりの中には、いのちに触れるということがあると思います。

主に4・5歳児は、種まきから水やり、草取り、そして収穫をし、試食をする、または種取をしているのちをつなぐということを感じるという一連の体験をしています。

自分たちで見つけた小動物を育てるという中でも、小さな生き物を見つけて集めることだけを楽しみ、次の日には死んでしまったという体験や、毎日世話をしてダンゴ虫の赤ちゃんが生まれた瞬間や、チョウがさなぎからチョウになって飛び立つ姿を見送った体験などから 命というものに対する驚きや不思議さに出会いました。

牛舎の見学では、おじさんから、「みんながおいしく食べている牛肉になる牛です。」という話を聞き、命をいただくという意味を幼いながらに感じる体験をしました。

また、近隣の獣医師の協力でうさぎを抱っこし、聴診器で心臓の音を聞かせてもらうという体験をし、生きているということを感じ、いたわって大事にしたいという気持ちがしげんと湧いてくるような感覚を味わいました。

そんな子どもたちの生活をさらに豊かにするために「私たち教師ができることはなんだろう、大川に関わりをもたせていただいていることを子どもたちに伝える方法は？」ということから、まずは自分たちがその歴史や今の現状を知ることが必要ではないかということで地元の戸田さんに園に来ていただき、職員研修の場をもつことにしました。

野洲川の歴史や移り変わりの様子、大川の現状やそこに住む生き物についてなどを教わることで、今

まであまり知らなかった大川は、今までよりも身近な存在となりました。

次に、このことを子どもに伝えるために、紙芝居づくりをすることにしました。守山市在住の絵本作家 今関信子先生にお越しいただき、絵本と紙芝居の違い、紙芝居の面白さ、特徴を生かす演出方法などを教わりました。

戸田さんから教えていただいた話を子どもたちに下ろすことはなかなか難しかったですが、身近で大切な琵琶湖や川存在を知らせたいと全職員で台本を考えました。

魚の種類もほとんど知らない私たちにとって、話に登場してくるアユやフナ ナマズやスジエビなど昨年度のフォーラムでいただいたみさき百科の魚の紹介は大変参考になりました。

出来上がった紙芝居は子どもたちに見せ、さらに、市民ホールで開催されたようちえんこども展では、広く市内の子どもたちにも、大川のこと、川を大切にしようということを知らせたいとこの話を劇にして上演しました。

そしてもうひとつ、こどもと歌との出会いがありました。理屈ではなく、毎日繰り返し口づさみながら、何かを感じ取ってほしいという願いをもって、私たちの意図が詰った曲を選び、この歌をうたってきました。

今日は、園で、録音をした5歳児の歌声を聴いていただき、この会場の皆様にも何か感じ取っていただけたらと思います。

【カセット ON】

最後に、昨年度もお話したかと思いますが、幼少期のわくわくした体験や、大失敗をした経験、地域の人たちに支えられた経験など、懐かしい思い出が地元を愛する心を育みます。毎月の寄合に参加させていただく中で、自治会長様からも、子どもたちが集う場としての大川再生ゾーンの構想の推進をしたいというお話を伺っています。

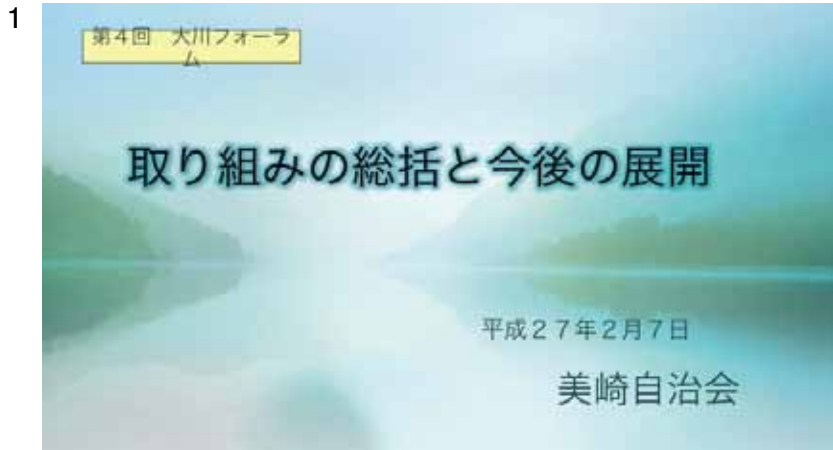
少しずつみんなの意識が高まり、人が集う場所が変わることを子どもたちとともに楽しみにし、大変微力ですが、幼稚園でできること、自分たちの住むまちが大好きになるための取り組みはこれからも続けていこうと思います。

これからもよろしくお願ひします。 ありがとうございます。



取り組みの総括と今後の展開

美崎自治会



4

大川等整備の基本的考え方（平成24年度策定）

※ 整備の基本方針

- ①大川の水質と生態系の改善・回復
- ②大川を上・中・下流の三つのゾーンに区分。
特性に応じた環境整備の推進
- ③大川とその周辺の多様な資源を地域の魅力化や
活性化に活用



5

大川等整備の基本的考え方

※ 整備の方針

- ①水質と生態系の改善・回復
- ②大川の環境整備
 - 再生ゾーン【水に触れ、川を楽しむゾーン】
 - 回廊ゾーン【沿川の修景ゾーン】
 - 河口部ゾーン【水景を楽しみ、交流するゾーン】
- ③オープンミュージアムの整備



6

大川再生ゾーン（イメージ）



7



8

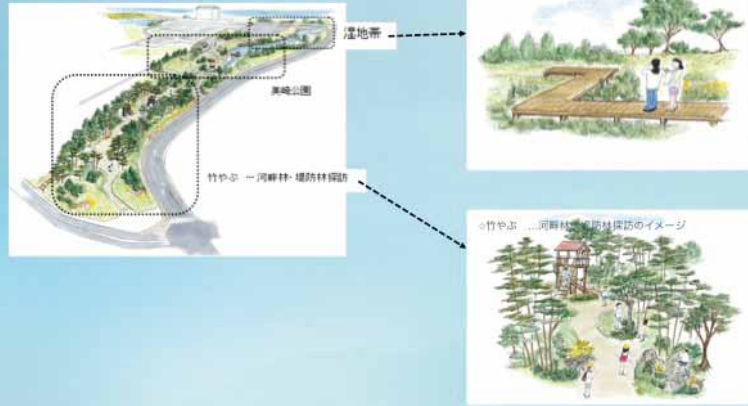


9



10

新川の環境整備（イメージ）



11

今後の展開

平成27年度に
『第2期大川等整備の基本的考え方』策定！

12

《取り組みの総括と今後の展開》

ご清聴ありがとうございました。

平成27年2月7日
美崎自治会

美崎自治会の伊藤さんの発表記録

美崎自治会の伊藤です。

それでは、「大川活用プロジェクトの到達点と今後の展開」というテーマで報告と提案を申し上げます。要は「これまで大川で何をしてきたのか」という報告と、「今後、大川や新川で何をするのか」とついて申し上げたいということです。お話する内容の骨子はお手元の資料の65ページに記載しておりますが、これに沿って順次お話しします。その前に前提として2点お話しします。

まず、話のなかで大川や新川、再生ゾーンや河口部ゾーン、オープンミュージアムなどの言葉を使いますが、それがどこなのか、位置や地理をご確認いただきたいと思います。お手元の資料の44ページの下の図をご覧ください。それぞれ大川・新川、さらにはオープンミュージアムの区域を示しております。

次に大川活用プロジェクトについてご紹介をします。

大川の取り組みは平成22年に自治会と市職員の有志のメンバーで河口部の水草の除去に取り組んだことに始まりますが、その翌年の平成23年に河川管理者である守山、大学の社会貢献に取り組んでおられた京都大学東南アジア研究所、滋賀県で唯一文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに選ばれて実験研究フィールドを探しておられた立命館高校の参画をいただき、4自治会を含めた4者で大川活用プロジェクトを組織することになりました。また、最近では大川の取り組みが子ども達の育つ環境づくりをテーマにしていることにご理解をいただきました速野幼稚園もご参加をいただいております。

この大川活用プロジェクトは毎月一回寄り合いを開催して、ワイワイいいながら平成24年に大川の環境改善や活用などを基本的な方針を「大川等整備の基本的考え方」として取りまとめました。

「大川等整備の基本的考え方」は、別添の資料に本文を掲載しておりますので詳細はそちらをご覧くださいと思いますが、骨格の部分資料の45ページ、46ページに紹介しました。

まず、基本的考え方では「整備の基本方針」として3つの方針を書いております。①大川の水質と生態系の改善・回復を図る、②大川を上・中・下流の三つのゾーンに区分し、特性に応じた環境整備を進める、③大川とその周辺地域の多様な資源（川・自然・産業・公園など）を地域の魅力化や活性化に活かす、というものです。

次に、この基本方針を受けまして「整備の方針」を定めております。その内容が①大川の水質と生態系の改善、②大川の環境整備、③オープンミュージアムの整備です。

この方針にもとづき3年間取り組みを進めてまいりましたが、ここからはこの3つの方針の具体的取り組み内容についてお話しします。

まずは「水質や生態系の改善」についてです。

水質については、まず水草の除去に取り組みました。22年、23年当時は大川の上流部や河口部に水草が蔓延していましたが、昨年はほぼ見られないまでになっています。油断するとまた繁茂すると思いますが、とりあえずは繁茂し、腐って沈殿し、それが栄養分になってまた繁茂するという悪の循環は断ち切ったと思います。

次の「大川の環境整備」では、大川を上・中・下流の三つのゾーンに区分し

- ・大川再生ゾーンは昔の川のように砂浜があり水遊びができる空間にしたい
- ・回廊ゾーンは大川沿いの道を植樹などで修景したい
- ・大川ゾーンは琵琶親や大川の水がある風景を楽しめる空間にしたい

と決めました。

まず大川再生ゾーンです。この区域は相当の荒地でしたが、雑草雑木を除去して3月中には砂を搬入し整地を終えます。その後、実のなる木を植えて子ども達が収穫体験をしたり、水遊びをできる空間にする計画です。ゆくゆくは美崎グラウンドと橋で結びたいと考えています。そのイメージ図が46ページの下図です。

次に回廊ゾーンですが、ここには3月にもハナミズキを植樹することとしております。余談ですが、今、洲本の葎本さんが大曲地先の地球市民の森で四季桜の植樹活動に取り組んでおられますが、ゆくゆく

はこの四季桜、今浜のコスモス園、美崎の桜とハナミズキ、なぎさ公園の菜の花畑やハマヒルガオをつなげ、四季折々の花の回廊として整備ができれば素晴らしいと願っておりますし、後ほど説明がある「速野まるごと活性化」のテーマになっています。

次は河口部ゾーンですが、ここは守山市において「デッキ」の整備を検討していただいております。この地域は滋賀県でも有数の景勝地ですが、水の上からその景色を楽しむことが出来れば一層素晴らしいものになるのではないかと考えています。人間は、水面をみますと心が深くなる気がします。恋人たちは概ね港や山の湖にいきますが、ここが滋賀のデートスポットになればいいな—と願っています。私自身は景色を楽しみながらおいしいコーヒーを飲みたいと願っています。

整備の方針の三つ目は大川・新川を中心にしたこの一帯の活用としての「オープンミュージアムの整備」です。オープンミュージアムは馴染みの薄い言葉ですが、要は、この地域の川、琵琶湖、農水産業、生活などの資源を教材や展示物として子ども達の育ちに活かしたり、外から見えた方々の新しい発見に役立てようという構想です。

この考えに基づいて取り組んできましたのが先ほど報告いただきました「夏休み大川自由研究室」であり、「みさき百科」の編集です。また、立命館守山高校の皆さんや速野幼稚園との協働もその延長上にあります。

ここまでがこれまでの取り組みの報告になります。

次は「今後の展開について」お話をしたいと思います。

大川の今後の主要な課題については、概ね4点に整理をしました。47ページに掲げております①大川の水質改善、②オープンミュージアム構想の推進、③地域の魅力化・活性化への寄与、④広範な連携の維持・形成です。

まず、「水質の改善」です。

残念ながらこれについては目に見える成果を申し上げる段階にはいたっておりません。先ほど報告がありましたように立命館守山高校の皆さんに種々の試験研究をしていただいております知見を集めている段階といえます。

しかし、あれだけの水域の水をきれいにしようとしますと水を入れ替える、他の水系から水を入れる導水がどうしても必要ですが、どの水系からどう導水するか簡単ではありません。

次に課題は「オープンミュージアム構想の推進」についてです。

繰り返しますが、もともとこの構想は地域社会として子ども達の育ちをどう応援できるか、あるいはするか。その地域で生活する人はもとより外からの訪れる人たちに自分たちの地域の資源を活かして何が提供できるかということから発想したものです。

オープンミュージアムなり野外博物館といった構想は全国的にも多くあるようですが、モデルにしたという事例はまだ見当たりません。したがって手探りで進めているところですが、今後の取り組みとしては、一つには夏休み大川自由研究室などの取り組みを積み重ねながら、子ども達をどう支援するか新しいプログラムを策定すること。二つ目には、新川の活用を視野にいれて博物館の展示物を増すことなどを考えています。

そこで新川ですが、48ページをご覧ください。

新川については三つの区域に分けられますが、一つは森のない守山でこの河畔林は大変魅力的な場所ですし、河口部の湿地帯も活用できます。加えて、一番魅力的なのは拠点となる美崎公園があることです。オープンミュージアム構想を進めるうえで実に重要な存在と言えます。

次の課題は「地域の魅力化や活性化への寄与」です。

地球市民の森がほぼ完成し、県道今浜水保線の切り下げも実現しますと、地球市民の森から琵琶湖につながるこの一帯は、菜の花畑やなぎさ公園などを含めて極めて魅力的な場所になります。その中心ともいえる場所に新川があり、大きな河畔林や美崎公園、そして河口の湿地帯があります。

また、大川の河口部で親水デッキが整備されますと新たな魅力が生まれます。ここでは、さまざまイベントも考えられます。そうなりますと、われわれのプロジェクトだけでは手にもたまりませんので、周辺の企業の皆さんや学区での取り組みなどが重要になります。ということで、とりあえず寄与という表現を使いました。

課題の最後にあげましたのは、「地域社会との連携」です。

実は大川の取り組みの最大の成果が「大川活用プロジェクト」が組織されたことではないかと思っています。大学、高校、行政、自治会そして最近では幼稚園と異質の組織がそれぞれの目的や意義をみいだしながら、しかし同時に地域の課題に取り組むという地域づくりの新しいモデル・美崎モデルといったもの提案してきたように思います。

また自治会レベルで申し上げれば、例えば夏休み自由研究室の開催にあたっては農業・漁業のみなさん、女性グループ、若いお母さんや私のような老齢に達した男性など多様な人たちに参加していただいています。また、大川の清掃活動には働き盛りの40代、50代の男性に参加いただいています。こういう枠組ができているのは大川の取り組みの成果だと思います。

今後、さらに周辺の企業の皆さん、農水産業のみなさん、さらに学区などの地域社会との連携・協働が進めば新しいまちづくりが進むのではないかと思います。

その一例が先ほどご紹介した花の回廊構想です。特に学区とは「速野学区のまるごと活性化」のプロジェクトのなかに、「大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト」が位置づけられてこともあり、連携・協働を深めていくことが重要と考えます。なお、市の「守山まるごと活性化施策」をのちほど市の担当者から説明していただくこととしております。

最後に今後の取り組みですが、今日のフォーラムでの意見やアンケートなどを踏まえながら27年度に議論を重ね、第二期の大川等整備の基本的考え方を策定したいと考えております。

と、ということで私からの報告を終わります。




守山まるごと活性化の取組み

守山市

1

守山まるごと活性化の取組み



守山市では、「住みやすさ」と「活力」の2つを兼ね備えた「住みやすさ日本一」が実感できるまち守山の実現を目指し、市内にある歴史・自然・生活などの地域資源を活かした魅力的なまちづくりの取組み『**守山まるごと活性化**』を推進しています。

この取組みでは、**地域の人たちが主体となり**、市内7つの学区それぞれを活性化するため、必要な具体策を盛り込んだ『**守山まるごと活性化プラン**』が策定されました。

いま市内では、このプランの実現に向けて住民手づくりによるまちづくり活動が動き出しています。今後さらにより魅力的なまちにするため、お力添えをよろしくお願いします!!

守山市の地域振興課では「守山まるごと活性化」の取組みを推進しております。

まずは、この守山まるごと活性化とはどういったものなのかを説明させていただきたいと思います。

いつも地域の皆様にはまちづくりに関しまして、何かとお力添えをいただきまして誠にありがとうございます。そもそも守山まるごと活性化プランとは、市内7学区が活性化するためのまちづくりの方針や具体策をまとめた活性化のプランを作成しました。そして今年度から活性化に向けて学区それぞれで取組みがスタートしています。

目的としては、住みやすさと活力を兼ね備えた「住みやすさ日本一」が感じられるまちを目指しています。


2

活性化に向けて...(目的)

①地域の“たからもの”(地域資源)の活用
→自然的、歴史文化的環境の保全・活用

②地域の“絆”を強化
→地域コミュニティの維持、向上

③「愛着と誇り」の醸成



今取り組んでいる活性化の取組みは、地域の皆様が主体となり、手作りで積極的に展開されています。この取組みが、まちへの愛着や誇りを醸成することにつながるのだと感じています。地域それぞれには独自の課題がありますが、地域にある「たからもの」を活用し、地域の方々が知恵を出し合い、工夫をしながら住民の方々が取組みを展開していくことで、より強い地域の絆やコミュニティが形成されていくことを大いに期待されています。

3

速野学区 まるごと活性化の取り組み

テーマ ～「受け継いできた自然・風土と未来を見つめる人が主役のまち」～
守山の北玄関(仮称)速野まるごと博物館

速野学区には、広大な学区域に自然、水、歴史などに彩られた多様なたからものが点在し、地域住民の生活に溶け込みながら守られてきました。また、このような環境で育まれた第一産業(農業、漁業)を通して、人と人、人と地域のつながりが醸成されてきました。琵琶湖大橋の開通以降は、本市の北の玄関として急速に発展するとともに、新旧の住民が一体となって他の学区に先駆けた様々な取り組みを行い、その気風は今なお地域住民の中に息づいています。

私たち速野学区民は、守山の北玄関にふさわしいもてなしの心を胸に、先人たちの進取の気風を受け継ぎ、地域の恵まれた環境を(仮称)速野まるごと博物館(エコミュージアム※)として後世までに大切にしながら、未永く生き活きと暮らせる速野のまちづくりを目指していきます。

【速野学区 まちづくりプロジェクトの紹介】

- ☆ A 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト
- ☆ B (仮称)速野まるごと博物館プロジェクト
- ☆ C びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト
- ☆ D 大川周辺の自然環境保全&環境学習促進プロジェクト
- ☆ E ふるさとの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト
- F みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

守山まるごと活性化の具体的な取組について、紹介していきます。
各学区において、それぞれテーマを設定して取り組みを実施されています。

速野学区では「受け継いできた自然・風土と未来を見つめる人が主役のまち。守山の北玄関(仮称)速野まるごと博物館」をテーマとし活動を展開されておられます。

速野学区には、自然や水、歴史などに彩られた多様なたからものが点在し、地域の住民の方々に溶け込み、人と人、人と地域のつながりを醸成してきました。その気風は今も住民や地域に息づいております。

その気風を活かした、また環境を活かした取り組みを展開し、後世までこの気風を大切に残していく未永い生き活きとした速野のまちづくりを展開されています。

以下の星印がついているものを取り組んでおられるものです。中でも赤い星が、この大川プロジェクトとも非常に関わりのある取組となっております。

4

速野学区 まるごと活性化の取り組み

A 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

B (仮称)速野まるごと博物館プロジェクト

→速野マップ作り
→花回廊コースの検討
→情報発信拠点(サイクリングステーション)

C びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

→地球市民の森の活用促進




速野学区はそれぞれのプロジェクトが単独で取り組むものではなく、連携や協力ができるプロジェクト同士ではつながりを持って活動を展開されておられます。

AプロジェクトとBプロジェクトでは、速野のマップを作成したり、花回廊のコースを検討されたりなどに取り組んでおられます。

また情報発信拠点として、「自転車」や「サイクリング」をキーワードに検討を進めておられます。

またCプロジェクトでは地球市民の森の活用を推進されており、速野学区の「学区民のつどい」をこれまで会館で開催していましたが、今年度は地球市民の森で開催するなどして活用されておられます。

5

速野学区 まるごと活性化の取組み

D 大川周辺の自然環境保全&環境学習促進プロジェクト
→大川プロジェクト外など自然を活用した取組み



E いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト
→アンケートの実施
→語り部を実施予定

Dプロジェクトでは、この大川プロジェクトと連携しながら取り組みを進めさせていただいております。

またEプロジェクトでは昔の速野学区を知ろうということで、語り部をお招きして、昔の速野のお話を聞く企画を検討されておられます。

6

諏訪家屋敷の活用(玉津学区)

玉津学区 守山まるごと活性化
Aプロジェクト
「諏訪家屋敷をはじめとする玉津の歴史・
伝統文化活性化プロジェクト」

- 諏訪屋敷まつりの開催
- 地域の語り部の育成
- ウォーキングマップの作成



その他の学区についてですが、まず玉津学区をご覧ください。

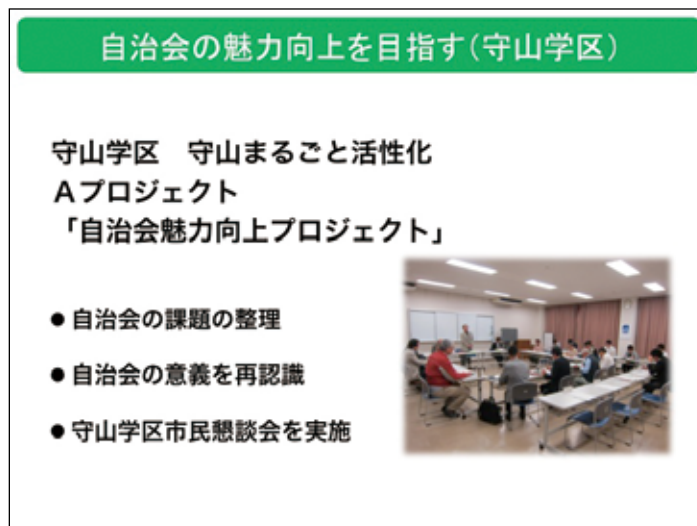
玉津学区では地域のたからものとして、「大庄屋諏訪家屋敷」を取り上げ、活動に取り組んでおられます。
具体的には、昨年11月に「諏訪家屋敷まつり」を開催され、語り部の発表やスタンプラリーなどの、地域の方々手作りのイベントを開催されました。
他にも語り部の育成や、ウォーキングマップの作成等にも取り組んでおられます。

7



このように、地域のみなさんで話し合いや準備を進め、イベントを実施されました。
まさに地域の方々手作りのイベントとなりました。

8



続いて守山学区では、駅前周辺地域でもあり、マンションの増加とともに人口も増加しています。
しかし、人口が増加することで、地域コミュニティの希薄化や自治会運営などの課題が出てきました。
そこで守山学区では、自治会のあり方を見つめ直し、自治会の魅力を向上させようと、話し合い等を重ねておられます。
現在ではまちや自治会についての課題を洗い出し、整理をされている段階です。

9



このように話し合いを重ね、整理を行っておられます。

10



河西学区では、野洲川のすぐ横にある「北川原公園」に地域の方々手作りの花壇を作っておられます。
お写真をご覧いただきたいのですが、枕木を並べたり、球根を植えたりなど、まさに地域の方々が作業をされて花壇を作っておられます。

11



実際花壇を作られるまでには、みなさんで話し合いを行い、どのような花を植えるかなどを検討されておられました。また視察も行い、お花を植えるイメージ等を共有されておられました。

以上、守山まるごと活性化の一部の取り組みを紹介させていただきました。

今回ご紹介できなかった学区の取り組みについても、地域の特色やたからものを活用した、手作りのまちくりが展開されておられます。

今後も行政と地域とが連携して各事業を推進していきたいと思っていますので、お力添えをよろしくお願いいたします。



各活動報告に関する所感講話

(高谷先生講演要旨)

「夏休み大川自由教室」の取り組み※大川自然博物研究会について・・・

- ・現在の大人世代と違い、今の子ども世代は体験できるフィールドが限られている。
- ・幼児期の楽しかった体験は人間形成に影響を与えるもの、そのような機会を、地域資源を活用しながら提供することになっていて、単に環境改善を図る取り組みとどまらず、情操教育的な視野をもって取り組まれている面が感慨深い。

大川の水質改善への取り組み※立命館高校サイテック部について・・・

- ・立命館高校サイテック部の研究活動は、水質改善、水耕栽培へドク除去、太陽光など、ポイントをとらえた高レベル、プロフェッショナル的な取り組みと言える。
- ・科学的にも、基本事項を押さえて、関連項目を確実に探究した総合的な提言レポートである。

速野幼稚園の取り組みについて・・・

- ・自然環境に触れ、命の大切さを体感的に身につけさせること、大川自然博物研究会（夏休み大川自由教室）の取り組みと連動し、さらに幼児期から人間形成の基礎を築きあげることで、人間性を育む根本を実践していると言える。

今日までの取り組み総括・今後の展開※美崎自治会

- ・自治会長からの総括をうかがい、広い視野で地域づくりを展開、実現性が高い着実なプラン展開を実感、地元住民の気持ちを持ち上がっているプランであることが強みである。
- ・外部提案のランドデザイン提案と違った、積み上げてきた発想の強みがある。
- ・大川に続き、新川のイメージ策定が図られると、広がりネットワークが構築され、オープンミュージアム構想の実現を確信する。

地域全体で感じられること

- ・美崎までの自転車での経路「地球市民の森」においても、ネパール桜（2回花をつける）も芽吹き、速野学区では美崎に限らず他の自治会でも、すでに地域づくり活動が展開され連続性と住民意識の高揚が伝わってきます。
- ・竹やぶは昔、かつての記憶では雑木地帯のようで、踏み込むと突き刺さり、危ない面もあったがそれなりに自然とふれ合うことができたエリアであったように覚えている。
- ・当時そのものの復元でなく、風情を踏襲し、現在、求められる自然とのふれ合いのあり方に相応しい環境が整うことを疑わない。
- ・比良山の眺望を背景に、東海道線側には歴史ある街並みを有し自然環境と利便性の両面とも恵まれている。
- ・国指定の歴史遺産が2箇所もある市町は例が少なく、それほど重要な歴史素材が多い地域性の証である。
- ・くわえて、人間関係も良好で、人材面にも恵まれたまれな地域である。
- ・一方、課題と感じる点もあり、野洲川…もともと河川であったエリアが（廃川となったことで）水の恵みが薄らいで乾いた雰囲気を感じる面が否めない。
- ・現実には火災に襲われれば、汲み上げる水源もなく心配な事項が潜んでいることを感じる。
- ・さらに、「まるごと活性化プラン」の実践により、大川プロジェクトが全市レベルで、そのコンセプトが位置づけられるようになり、地域内外の人々に有効に活用、機能発揮できることを願う。

第二部 パネルディスカッション

第4回大川フォーラム（パネルディスカッション） 議事概要

- ・日時 平成27年2月7日（土） 午後1時30分から4時30分まで
- ・場所 美崎自治会館（守山市今浜町2761-35）

（開会）

司会

第3部パネルディスカッションに移ります。

着席順、右側からパネリストを照会させていただきます。

立命館高校サイテック部濱野さん、京都大学名誉教授 高谷さま、速野学区ふるさとづくり委員会 山本さま、守山市長 宮本さま、美崎自治会長 伊藤さま、パネルディスカッションのコーディネーターを京都大学准教授安藤さまにお願いいたします。

安藤先生におかれましては、京都大学准教授、東南アジア研究所実践型地域改革研究室室長を務められ、バングラデシュ、ブータン、国内各所の実践型地域農村改革を研究され当プロジェクトはスタート当初から指導、アドバイスをいただき、プロジェクト推進の中心メンバーとして活躍いただいております。

安藤先生

こんにちは。

パネルディスカッションに入ります。

はじめに、アンケートご回答47件、内問4（新川の活用）に記入ある票30件質問票は、6票いただきました。

アンケート、質問の内容はディスカッションを進めるうえで重要な内容ですから、冒頭に私が概要を読み上げ紹介します。

（アンケート照会…集約一覧表参照）

↓コーディネーターおよびパネラー発言概要

（コーディネーター 安藤和雄 様）

- ・バングラデシュ等と比較すると、大川は「きたない」とは思わないし、みなさんが考える「きれい」にする必要がないと思う。
- ・大川のヘドロみたいに毒素を含まないと考えられるヘドロは肥料として循環させることは大切なことであるし、ここ美崎に特化したものではなく、市内全域で取り組めばよい。
- ・日本のなかでも美崎は稀有であり、対外的に情報発信すればさらに発展すると思う。
- ・幼稚園教育が地域のなかで位置付けられていることがすばらしく、全国的には例がない。
- ・同様のプロジェクトを実施している地域へ訪問することが多々あるが、「ここに住み続けることは良いことだ、と言えますか？」の質問に「はい」と即答できないところばかりである。しかし、この美崎地区は「はい」と即答できる。地域住民の高い意識の表れであると考えている。

(美崎自治会長 伊藤様)

- ・日本人、特に守山市民は水に求める水準が高い。
- ・水質浄化に向けては、浄化技術はたくさんあり、どれを選択し活用していくかを学ぶ必要性が高まっていると感じている。
- ・その中にあらゆる物が備わっているという意味で、「自治会≒自衛隊」論を自論として持っており、自治会組織に対しての批判が存在していることも理解しているが、やはり自治会の役割や可能性を非常に意識し、期待している。その点を確認しつつ会員とともに今後も汗をかいていきたい。

(速野学区ふるさとづくり委員会 山本様)

- ・速野学区は、市内の学区の中でも様々な点で恵まれた学区である。
- ・速野学区のまるごと活性化事業の推進は、何といても恵まれた自然・文化・歴史が中心となる。
- ・まるごと活性化事業において、大川活用プロジェクトは速野学区の先導的役割である。
- ・速野学区は、元来、水について悩むことがなかった地区であり、そういう感覚だけはあるが、なかなか動き出すことがなかった。しかし、このフォーラムで水質浄化していただき、これも初めて知ることができたし、やはり動き出すことが非常に重要であることを改めて感じた。
- ・唱歌「ふるさと」の原風景は速野学区街づくりの原点であり、その意識を次世代へ受け継いでいきたい。

(京都大学名誉教授 高谷様)

- ・大川のヘドロは有毒なものが含まれているとは考えられないため、肥料として活用していくことは可能である。
- ・安藤先生と同様、水質については、そこまでスカッときれいにする必要はないと考える。
- ・守山市は、つぎこむ価値と夢がある「大川」と「市遺跡」にもっと金を投資すべきである。
- ・このような街づくりに関しては、今の半分の人口規模が想定される50年先を見て議論していく必要がある。

(立命館高校サイテック部 濱野様)

- ・川底からヘドロを引き揚げることでさえできれば、肥料化技術は持ち合わせているため可能だが、現時点ではヘドロを根こそぎ引き揚げる手法が人海戦術しかないことが課題である。日本国内で言えば、長野県の松本城の堀におけるヘドロ除去を参考に見ればよいかもしれない。
- ・折角の取り組みを発信する力を強化すべきである。例えば、フェイスブック、ツイッター、Yahoo ボランティア、Yahoo コクチーズ、レディーフォー（クラウドファンディング）等々

(守山市長 宮本様)

- ・高谷先生や安藤先生がスカッと綺麗な水にする必要はないとおっしゃられたが、ご協力を今後也得るなか、市としてはやはり澄んだ綺麗な水環境を目指していきたいと考えている。
- ・速野学区において、ヘドロ除去や導水は非常に重要であると考えている。
- ・ヘドロが増えてきているのは、しっかりとした水流が確保できていないためだと考える。そのため、勾配の関係で難しいと聞き及んでいるが法竜川からの導水や北川用水路を活用することを検討している。
- ・大川ではないが、新川を対象に環境省 湖沼底層溶存酸素・透明度改善モデル事業に応募している。
- ・情報配信については、行政のウィークポイントでもあるので、是非若い力に期待したい。
- ・ピエリが再興し、ピエリ→大川→地域一体の流れで来客者が楽しめるよう図っていきたい。
- ・ここ美崎の気運を高め、地域を巻き込んで市全体の推進力を高めていきたい。

司会

安藤先生ありがとうございました。今一度大きな拍手をお願いいたします。

以上を持ちまして第4回大川フォーラムを終了させていただきます。皆様におかれましてもお時間をいただき本当にありがとうございました。今後とも、大川活用プロジェクトにさまざまご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成 26 年度取り組み計画

○26年度取り組み方針

- ①大川の環境改善のため、引き続き水草除去、除草活動、植生浄化に取り組む。
- ②大川再生ゾーンの整備を進めるため、先進事例調査を踏まえ整備構想を策定するとともに、覆砂や除草活動を進める。
- ③子どもたちの地域への関心を高めるとともに環境学習の場を提供するため、夏休み大川自由研究室の開催や環境調査を実施する。
- ④大川を中心とした地域の自然や社会を記録し、魅力と価値を共有化するとともに将来世代に伝えるため、みさき百科の編集や写真募集を行う。
- ⑤大川プロジェクトの最大の課題である水質改善策を探る等、これからの大川の環境整備と活用について議論する。

○取り組み内容

1. 環境改善活動

- ①水草除去事業・・・2回実施（7月、10月）
- ②法面除草・河畔林（竹）整備事業・・・7月、11月
- ③植生浄化事業
- ④生態系改善事業・・・在来魚放流事業（5月8日）

2. 再生ゾーン整備活動

- ①先進事例調査・・・東近江市河辺いきものの森調査（7月）
- ②整備構想策定事業
- ③覆砂および除草事業

3. 学習・調査活動

- ①夏休み大川自由研究室開催事業（8月5日）
- ②環境調査事業

4. 魅力発見活動

- ①「みさき百科」編集事業
- ②「とっておきの美崎」写真募集事業

5. 大川の未来を語る活動

- ①大川フォーラム開催
- ②水質改善策検討
- ③河口部ゾーンおよび回廊ゾーンの整備構想検討

○取り組み体制

- ・大川プロジェクトの開催
- ・美崎自治会「大川委員会」の開催
- ・「大川だより」の発行 等

「夏休み大川自由研究室」チラシ

夏休み大川 自由研究室



～じゅう けんきゅう しつ～

参加者募集

守山市の大川とその周辺で、びわ湖や大川での魚つかみ、夏野菜の収穫、アジアの料理の試食などを体験します！夏休みの思い出作りに、ぜひ参加してね♪

自由研究テーマ

① 調査室

つかまえた魚や、夏野菜を調べてみよう！

② 竹細工遊び

水鉄砲、竹トンボ、竹馬など、竹で遊ぼう!!!

川魚料理や夏野菜カレー、また流しそーめんなどなど☆

③ 昼食

4 アジアを知る教室

「東南アジアの食事」の勉強と試食をしよう!!!

⑤ 体験教室

いろいろな体験を！

- びわ湖での漁業体験(5・6年生)
- 大川での魚つかみ体験(3・4年生)
- 夏野菜の収穫体験(1・2年生、幼児)

日時

平成26年 **8月5日**(火)

場所

午前8時30分～午後2時

守山市美崎の大川周辺と美崎自治会館

対象 市内の**小学生約50人** (低学年は保護者同伴)

問い合わせ・申し込み

7月21日(月)から26日(土)までの、午前9時～12時までの間に、
美崎自治会館 (TEL:585-1019) までお申し込みください。
申し込み多数の場合は抽選とします。

主催

大川自然博物館研究会 (美崎自治会館内)

卷末資料②

「夏休み大川自由研究室」新聞掲載

0807 京都新聞滋賀県版 記事

夏休み魚つかみに歓声

守山 児童ら、夏野菜収穫も



5、6年生は漁船で琵琶湖に出て仕掛けを引き上げ、3、4年生は大川で刺し網にかかった魚を捕まえた。

地元の漁師が指導し、琵琶湖ではウナギやテナガエビ、大川ではブラックバスなど外来魚のほか、ニゴロブナやゲンゴロウフナも捕れた。

子どもたちは身の回りに多様な魚がいることに驚き、水槽に入れた魚にこわこわ手を伸ばして「ぬるぬるする」と歓声を上げていた。1、2年生は畑でナスやミニトマトを収穫した。

(森山敦子)

守山市の美輪地区の小学生を対象にした「夏休み大川自由研究室」がこのほど、同市今浜町の大川や琵琶湖で開かれ、子どもたちが魚つかみや夏野菜の収穫を体験した。

自治会メンバーによる「大川自然博物館研究会」が、豊かな自然を学習の場に活用しようとして昨年に続いて企画。児童68人が参加し、

琵琶湖や大川で捕れた魚をこわこわ手でつかむ子どもたち(守山市今浜町・美輪自治会館前)

川 澤 悠 旋 田 本 井 坂 原 沖 清 村 口 原 市 千 琉 陽 桑 寿 仁 中 目

巻末資料②

「夏休み大川自由研究室」アンケート結果

資料2. 平成26年度「夏休み大川自由研究室」アンケート結果（美崎自治会作成）

	6年生	5年生	4年生	3年生	2年生	1年生	幼児
Q2①楽しかった	9	6	9	7	7	3	4
②楽しくなかった							
③わからな		1	1				1
Q3①体験教室	3	3		4	3	2	3
②ミニ水族館	4	2	1	1	1		2
③竹のおもちや	4	1	5	2	1	3	2
④ソーマンなどの食事	3	4	4	4	2	1	1
⑤アジアのカレーなど	2	2	1	1			1
Q4①来年も開催してほしい	9	7	10	5	7	3	4
②そうはおもわない							
③わからない				2			
Q5①自由研究テーマにする	4	4	1	1	3	1	
②べつのテーマにする			4		1		
③まだわからない	5	3	5	6	3	2	

【自由意見】 ・船から魚釣りをしてみたい。(3)

- ・川魚料理を食べてみたい。(1) 食べるものをつくりたい。(1)
- ・竹でおもちやをつくりたい(4)
- ・大川の微生物を顕微鏡で見てみたい。(1) いろいろな実験をしてみたい(1)
- ・魚が欲しい。(1) 舟にのりたい。(1) いろいろな国の人に来てほしい。(1)
- ・もっと時間を増やしてほしい。(1)

巻末資料②

「夏休み大川自由研究室」 当日のようす



大川等整備の次の一歩に向けて

美崎自治会

1. 経緯・趣旨

準用河川大川等の環境整備に向けた取り組みは平成23年度に組織化した大川活用プロジェクトのもと、平成24年度に策定した「大川等整備の基本的考え方」に基づき進めてきたが、3年を経過する中で一定の成果が見え始めた事項と容易に解決しない事項が明確になるとともに新たな課題も見えてきた。

このため、これまでの取り組みを点検しつつ、今後の進め方について協議するとともに幅広い連携を確認することとする。

2. 「大川等整備の基本的考え方」の総括

1) これまでの主な成果

①推進体制分野

研究分野・教育分野・行政・地元組織の連携のもと、持続的で広範な取り組みの継続

②環境改善分野

大川全域で水草を除去するとともに、大川再生ゾーンでの河川敷整備、回廊ゾーンの修景植樹（27年3月頃実施）、河口部ゾーンでの親水デッキの整備（調整中）に着手〈別紙：イメージ図参照〉

③活用分野

夏休み大川自由研究室の開催や環境調査の実施、立命館高校による調査研究フィールドとしての活用、大川自然博物館資料（「みさき百科」）の発刊、大川再生ゾーンの活用構想の確認等

2) 今後の主な課題

①大川の水質改善

他水系からの導水を抜本策にしながら、大川での浄化策を含めた対策の推進

②オープンミュージアム構想の推進

地域の自然や文化を活かして子ども達の育ちや調査研究活動を支援するオープンミュージアム構想の推進

③地域の魅力化・活性化への寄与

大川周辺の水景や花畑、新川の湿地や河辺林、さらには美崎公園等を活かした地域の魅力化、活性化への寄与〈別紙：イメージ図参照〉

④広範な連携の維持・形成

大川活用プロジェクト構成員を核に、立地企業や農・漁業さらには広範な地域等との連携の維持・形成

3. 今後の展開

第4回フォーラムでの意見交換をもとに27年度に「第二期大川等整備の基本的考え方」として取りまとめる。

大川等整備について

各ゾーンの整備推進状況・イメージ策定状況

【河口部ゾーン ウッドデッキ完成イメージ】

準用河川大川水辺環境整備事業

平成 27 年度から 2 か年間で遊歩道整備を実施



新たな水上歩行空間の創出とともに、水上体験、環境学習、水上ステージ…として、多目的に活用されます。



【大川再生ゾーン】

親水空間(里川)の創出、原風景の再生…計画中



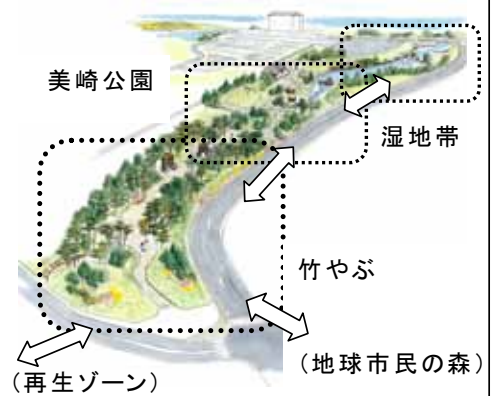
空から見た美崎

【オープンミュージアムゾーン】

新川の環境整備策定イメージ

構想集約中

…ネットワーク形成の構築



湿地帯…自然ふれあい探訪



竹やぶ…河畔林堤防林探訪

水質データ 【春季】

【春季】

【水質調査、経年変化＜春季比較＞】（大川・新川）

調査地点	上流（C地点）				中流（B地点）				下流（A地点）							
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	
項目\年度																
pH		6.8	6.5	7.1	6.9		6.9	6.4	7.2	6.9		7.0	6.6	7.4	7.4	7.4
BOD (mg/L)		7.1	4.7	9.6	3.5		3.5	4.5	6.8	3.2		2.4	2.7	2.3	2.3	3.6
COD (mg/L)		15	6.6	12	6.8		11	5.9	6.3	6.1		6.7	6.0	6.4	6.4	6.5
SS (mg/L)		21	13	26	15		14	24	14	11		12	11	11	11	12
DO (mg/L)		4.4	4.8	5.9	3.5		3.6	6.7	4.9	3.7		3.7	7.5	5.3	5.3	6.5
T-N (mg/L)		2.0	1.49	1.1	0.95		2.0	0.92	1	0.94		1.6	0.69	0.93	0.93	1.1
T-P (mg/L)		0.2	0.148	0.13	0.12		0.3	0.086	0.067	0.1		0.1	0.082	0.032	0.032	0.1
pH																
BOD (mg/L)																
COD (mg/L)																
SS (mg/L)																
DO (mg/L)																
T-N (mg/L)																
T-P (mg/L)																

(参考：採水日)

平成 23 年度 H23.5.26

平成 24 年度 H24.5.30

平成 25 年度 H25.6.3

平成 26 年度 H26.5.22

	上流（C地点）				中流（B地点）				下流（A地点）							
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	
大川		D	D	E	D		D	D	D	D		D	D	B	B	C
新川																

別表 1 による評価結果まとめ

水質データ 【夏季】

【夏季】

【水質調査、経年変化<夏季比較>】(大川・新川)

調査地点	上流 (C地点)						中流 (B地点)						下流 (A地点)						
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
大川	pH	7.0	6.9	14	6.2	6.8	7	7.0	7.1	8.7	6.2	6.9	7.2	7.1	7.3	2.8	6.5	7.1	7.1
	BOD (mg/L)	1.9	13	10	9.1	6.6	16	2.2	16	16	3.7	2.1	4.1	1.3	9.6	4.2	8.4	2.6	2.5
	COD (mg/L)	8.6	31	4.3	6.0	8.7	8.9	7.5	13	5.6	7.4	6.1	5.5	6.6	9.2	4.7	6.4	6.3	6.2
	SS (mg/L)	12	4.2	2.3	2.3	1	0.7	6.0	2.6	2.6	8.5	4.6	15	1.8	1.9	0.67	13	4.8	4.6
	DO (mg/L)	3.8	0.40	0.40	0.46	0.19	0.48	4.8	6.9	0.18	4.2	5.8	7.1	2.2	7.1	0.14	6.4	5	4.7
	T-N (mg/L)	1.6	6.9	6.9	6.6	7	7.1	0.55	2.7	6.9	0.84	0.65	0.73	1.5	7.1	0.066	0.67	1	1
T-P (mg/L)	0.094	2.6	2.6	6.1	15	7.1	0.049	8.5	0.18	0.077	0.063	0.13	0.029	0.14	0.066	0.066	0.068	0.055	
新川	pH	7.2	9.8	2.9	4.1	6.7	7.1	6.9	10	2.9	6.5	7	7.2	16	7.1	6.6	7	6.9	
	BOD (mg/L)	20	2.9	2.9	4.1	6.7	7.1	4.9	2.9	2.7	3.6	3.2	5.8	2.3	3.4	3.4	7.9	4	3.7
	COD (mg/L)	18	6.7	6.7	10	16	9.1	9.5	8.5	8.5	9.2	8	7.5	8.5	10	10	9.5	10	7.2
	SS (mg/L)	23	9.8	9.8	23	24	22	19	10	10	19	9.4	19	7.9	16	16	14	13	15
	DO (mg/L)	14	2.9	2.9	4.1	6.7	7.1	4.7	2.9	2.9	5.9	5.1	3	7.7	4.2	4.2	6.0	4.3	3
	T-N (mg/L)	4.5	5.9	5.9	2.0	2.6	1.7	2.4	4.9	4.9	2.4	2.6	1.4	1.2	3.0	3.0	2.1	1.3	1.2
T-P (mg/L)	0.29	0.40	0.40	0.23	0.39	0.29	0.19	0.29	0.29	0.27	0.18	0.13	0.058	0.017	0.017	0.14	0.23	0.22	

(参考：採水日)

- 平成 21 年度 H21.8.19
- 平成 23 年度 H23.8.8
- 平成 24 年度 H24.8.2
- 平成 25 年度 H25.8.12
- 平成 26 年度 H26.8.25

	上流						中流						下流					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H21	H22	H23	H24	H25	H26
大川	D	△	×	E	D	×	D	△	E	D	B	C	D	△	D	C	B	D
新川	×	△	D	D	E	D	D	△	D	C	C	D	D	△	D	D	C	D

別表 1 による評価結果まとめ

水質データ 【冬季】

【冬季】

【水質調査、経年変化＜冬季比較＞】（大川・新川）

調査地点	上流 (C地点)					中流 (B地点)					下流 (A地点)				
	H21	H22	H23	H24	H25	H21	H22	H23	H24	H25	H21	H22	H23	H24	H25
大川	pH	7.2	6.8	6.7	6.8	7.3	7.1	6.7	6.9	6.9	8.1	7.4	6.8	7.1	7.1
	BOD (mg/L)	3.6	1.4	3.2	2	2.4	1.4	3	1.9	4.6	1.5	3.4	2.5	2.5	
	COD (mg/L)	6.8	9.4	4.6	4.9	6.6	8.6	4.4	4.2	9.8	7.5	5	4.8	4.8	
	SS (mg/L)	13	14	6.5	17	9.5	10	6	8	11	7	8.5	9.6	9.6	
	DO (mg/L)	7.2	6.5	6.4	8.5	8.8	8.5	6.3	10	13	10	8.9	11	11	
新川	T-N (mg/L)	1.4	2.4	1.9	1.1	1.1	2.0	1.1	1.2	1.2	1.6	1	1.2	1.2	
	T-P (mg/L)	0.083	0.16	0.07	0.13	0.067	0.13	0.066	0.11	0.078	0.068	0.059	0.087	0.087	
	pH	7.1	6.9	6.9	6.8	7.1	6.8	6.9	6.7	7.6	7.0	6.8	7	7	
	BOD (mg/L)	1.5	3.4	5.1	2.1	3.4	2.0	8.8	1.6	2.7	1.9	4.1	1.3	1.3	
	COD (mg/L)	5.8	8.1	4.5	4.7	8.8	7.4	6.8	4.9	8.0	7.5	5.2	4.8	4.8	
新川	SS (mg/L)	6.1	6	11	13	12	3	15	9.8	5.5	6	5.5	2.6	2.6	
	DO (mg/L)	5.3	2.1	5.9	7.2	7.6	2.3	8.3	8	9.9	6.6	6.7	11.1	11.1	
	T-N (mg/L)	1.4	4.6	2.6	1.6	1.2	3.0	2.3	1.8	0.53	1.5	0.8	0.9	0.9	
T-P (mg/L)	0.056	0.27	0.29	0.23	0.085	0.10	0.19	0.22	0.096	0.064	0.04	0.074	0.074		

(参考：採水日)

- 平成 22 年度 H23. 2. 9
- 平成 23 年度 H24. 2. 16
- 平成 24 年度 H25. 2. 19
- 平成 25 年度 H26. 2. 13

	上流					中流					下流				
	H21	H22	H23	H24	H25	H21	H22	H23	H24	H25	H21	H22	H23	H24	H25
大川	△	C	B	C	A	△	B	A	C	A	△	C	A	C	B
新川	△	B	D	D	B	△	C	D	E	A	△	B	B	C	A

別表 1 による評価結果まとめ

水質データ

(別表1) 【生活環境の保全に関する環境基準(河川)】 …環境庁公示「水質汚濁に係る環境基準について」より

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値						(参考) 該当河川
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数		
AA	水道1級、自然環境保全 及びA以下の欄に掲げる もの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN/ 100mℓ以下	四万十川	
A	水道2級、水産1級、 水浴及びB以下の欄に掲 げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN/ 100mℓ以下	利根川 最上川 北上川	
B	水道3級、水産2級及び C以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	5,000MPN/ 100mℓ以下	石狩川 多摩川	
C	水産3級、工業用水1級 及びD以下の欄に掲げる もの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	50mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	-	荒川 住吉川	
D	工業用水2級、農業用水 及びEの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	100mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	-	復屋川	
E	工業用水3級、環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/ℓ 以下	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと	2mg/ℓ 以上	-		

水質データ

【【用語説明】】

- 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
- 水道1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
- 水道2級 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
- 水道3級 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- 水産1級 ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
- 水産2級 サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
- 水産3級 コイ、フナ等、β-中腐水生水域の水産生物用
- 工業用水1級 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
- 工業用水2級 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
- 工業用水3級 特殊の浄水操作を行うもの
- 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度
- 水素イオン濃度 (pH) 水生生物に安全なpHは6.8～8.5とされており、pHが7のときに中性、7を超えるとアルカリ性、7未満では酸性を示す。
- 浮遊物質 (SS) 一般的に、数値が高いほど、水質の悪化を意味するとされており、水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質の量を示す。
数値が高いと、水が濁り外観が悪くなるほか、魚類のえらがつまってしまうて死んだり、水中植物へ光が届かず発育を妨げる。
- 溶存酸素 (DO) 一般的に、数値が低いほど、水質の悪化を意味するとされており、水中に溶けている酸素の量を示す。
数値が低いと、水の浄化作用を低下させ、水生生物が窒息死する。
一般的に、魚が生存するためには3mg/l以下では悪臭物質が発生するとされている。

水質データ

生物化学的酸素要求量 (BOD)

一般的に、数値が高いほど、水質の悪化を意味するとされており、水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量を示す。

数値が高いと、溶存酸素 (DO) が欠乏しやすくなり、10mg/l以上で悪臭の発生等がみられる。

大腸菌群数

大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数を示す。し尿汚染の指標として使われている。

全窒素 (T-N)

有機性窒素化合物および無機性窒素化合物に含有される窒素の総量を示し、数値が大きいかほど汚濁していることを意味する。水系を富栄養化させ、赤潮の原因となるため、富栄養化の程度を表す指標の一つである。

全リン (T-P)

リン化合物全体の総量を示し、数値が大きいかほど汚濁していることを意味する。水系を富栄養化させ、赤潮の原因となるため、上記の全窒素と同様、富栄養化の程度を表す指標の一つである。

巻末資料④

水質データ

(参考) 水生生物の生息域 (出典：公害防止の技術と法規編集委員会編、公害防止の技術と法規 水質編)

BOD (mg/L)	魚水	底生生物	備考
<u>2.5以下</u>	イワナ、ヤマメ アブラハヤ、カジカ	ヒラタカゴウ類 カワガラ類、ナガレトビケラ類 ヘビトンボ、サワガニ ブラナリア	
<u>2.5～5</u>	ウグイ、カマツカ タナゴ類、シマドジョウ ヨシノボリ	コカゴウ類 コガタジマトビケラ ヒタラドロムシ、ハバビロビル モノアラガイ、ヌマエビ	
<u>5～10</u>	フナ類、コイ タモロコ、モツゴ オイカワ、ドジョウ	ミズムシ、シマイシビル ヒメタニシ	弱い硫化水素臭はない
<u>10以上</u>	普通はない	イトミミズ、赤色ユスリカ ホシチョウバエ、サカマキガイ	ほとんどの場合、強い硫化水素臭が認められる。
<u>さらに水が汚れると</u> 、目で見える生物はいなくなる。			

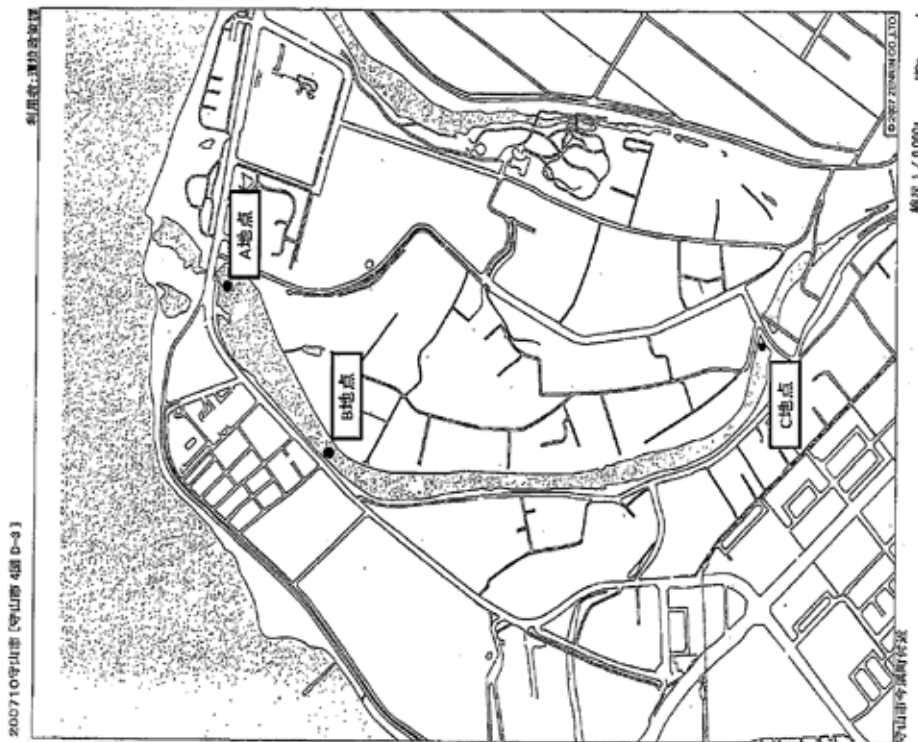
水質データ

採水場

新川採水地点



大川採水地点



平成 26 年度 美崎寄り合い開催状況

開催日	参集人数	主な協議内容
4月22日(火)	14名	平成26年度事業予定、スケジュール確認等
5月27日(火)	18名	夏休み大川自由研究室 構成内容協議、役割分担決定
6月30日(月)	17名	夏休み大川自由研究室準備状況確認、視察プラン
7月29日(水)	15名	夏休み大川自由研究室 事前確認
8月25日(月)	15名	夏休み大川自由研究室結果集約
9月26日(金)	14名	夏休み大川自由研究室総括
10月27日(月)	23名	夏休み大川自由研究室状況解析 フォーラム開催日等の決定
11月25日(火)	17名	フォーラム構成、内容の確定
12月24日(水)	16名	フォーラム詳細協議 役割分担、作業要領等確認
1月26日(月)	19名	フォーラム準備状況確認

※ 6月・7月会議録添付なし

『美崎寄り合い』 会議録

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 4 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 4 月 22 日（火） 19:00～21:00
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 9 名
 - (2) 京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 立命館守山 八木氏
 - (4) 守山市
 - 速野幼稚園 奥村氏
 - 環境政策課 木村課長/井上主査
 - 地域振興課 坪内課長/高山主任
4. 会議概要

年度初回につき参集者の自己紹介を行い、主に今年度の予定の確認を行った。

 - (1) 夏休み自由研究室について
 - ・ 夏休み自由研究室の開催日を検討。8 月 5 日で話が進められた。
 - ・ 竹細工や体験教室など、メニューについて簡単に協議した。
 - (2) 視察会の予定の確認
 - ・ 東近江市の「河辺の森」視察に関して予定の確認が行われた。再生ゾーンのイメージ策定に大いに参考になるとして視察対象として確定する。
 - ・ 市有バスの手配状況を確認→7/19（土）
 - (3) 美崎百景について
 - ・ 美崎の市誌を作るために、写真の募集集積の必要性を確認する。募集のかけ方など、どのように進めていくかについては検討継続。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 5 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 5 月 27 日（火） 19:00～21:00
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 12 名
 - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 守山市
 - 速野幼稚園 奥村氏
 - 美崎公園 中村氏
 - 環境政策課
 - 地域振興課
4. 会議概要

夏休み自由研究室の詳細内容を思案する。また、メンバーの得意分野をあてはめて役割分担について検討した。

 - (1) 水質調査について
 - ・ 立命館とも調整しなければならないが、水質調査の活動内容をそのまま夏休み自由研究室にスライドして一定のまとまりのあるレポートができないか。
 - ・ 事前に学習会を開催し、基礎学習や屋外調査ができればどうだろうか。
 - (2) 参加人数と募集について
 - ・ 多くて 50～60 人で限界。教室の大きさにも限りがある。
 - ・ 募集は 7 月初旬から始める。参加希望者が多く、応募人数によっては抽選も十分あり得る。
 - ・ 締め切りは 7 月中旬頃とし、様子を見て判断する。
 - ・ 市の広報のお知らせに情報を掲載し、参加者を募集する。
 - (3) 昼食について
 - ・ 魚料理や唐揚げを検討中。
 - ・ 野菜のバーベキューをしたらどうか。
 - ・ 流しソーメンが昨年人気であった。
 - ・ 東南アジア(バングラディシュ)の食の体験や勉強会を実施してはどうか。
 - (4) 竹細工について
 - ・ 昨年度より種類を増やしてみる。(水鉄砲、竹馬、竹トンボなど)
 - (5) 牧草迷路について
 - ・ 夏休み自由研究室に間に合うようにタイミングを考えて種をまく。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 8 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 8 月 25 日（月） 19:00～21:00
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 10 名
 - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 守山市
 - 環境政策課 木村課長/井上主査
 - 地域振興課 高山主任/白井囑託員
4. 会議概要
 - (1) 伊藤自治会長あいさつ
 - ・ 今年度は参加者の応募が大変多く、募集 3 日目ほどで予定していた人数に達した。予定人数までいっぱいになるペースがあまりにも速く驚いた。
 - ・ アンケートの集計結果を発表。
 - (2) 安藤先生のコメント
 - ・ 美崎地区以外からも子ども達がたくさん参加してくれていることは、たいへん良いことだと感じる。
 - ・ 大川プロジェクトは、世代間の連携も推進できる効果もある。
 - ・ お互いを尊重しながら、地域力としてまとまりが出ている。
 - ・ 今後も各位が楽しみながら活動できる雰囲気を持続できるように、学術機関・行政とも良好な関係を維持していきたい。
 - (3) 8/5 に実施された「夏休み大川自由研究室」の反省とふりかえり
 - ・ 竹細工について、子どもたちは作る体験もしてみたいのではないだろうか。
 - ・ 魚に子どもたちは非常に興味を持っていたと思う。
 - ・ 親御さんの都合の関係で、できれば土日開催してほしいという声がある。
 - ・ エアコンが止まるとは思ってもいなかった。
 - ・ 流しソーメンに関して、ソーメンだけでなく、他にも子どもたちが喜びそうなものを流しても良いかもしれない。（例えば：グミ、たまご、ミニトマトなど）
 - ・ 3・4 年生の大川の体験について、魚をあげたときに船縁が濡れてしまって子どもたちが座れなくなる。また、船縁に杭が出ていて危なかった。
 - ・ 救命胴衣など、子どもたちに自分の使ったものは片づけをさせるようにするべき。
 - ・ 「ありがとう」の一言がしっかり言えるように子どもたちを指導する。
 - ・ 解散式をしたらどうか。
 - ・ 難しいことだが、思考を変えたりなどして、新しいことにも取り組んでいくべきかもしれない。
 - (4) その他
 - ・ 次回予定は 9 月 24 日（水）19 時から 9 月定例会を開催。
 - ・ 「夏休み大川自由研究室」の参加人数について伊藤自治会長から報告。

☆ 全体の参加者は 68 名であった。
 →その内美崎自治会以外の参加者は 38 名とほぼ半数。38 名のうちほとんどが吉身学区、守山学区からの参加であった。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 9 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 9 月 26 日（金） 19:00～21:00
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 10 名
 - (2) 京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 守山市
 - 速野幼稚園 奥村氏
 - 環境政策課
 - 地域振興課
4. 会議概要
 - (1) 夏休み大川自由研究室の反省意見集約
 - ・ 船への乗り降りについて安全性の向上をしなければならない。船縁が濡れていたり、風で屋形船が揺れてしまったりなど、改善点がある。
 - ・ ライフジャケットの返却について、子どもがライフジャケットを返却してきたときには「ありがとう」とお礼を言えるように指導する。
 - ・ 子どもたちに渡す「説明書き」（ハンドブック）が必要。
 - ・ 野菜作りの体験ができるように。
 - (2) 平成 26 年度後半の取り組みについて
 - ・ 夏休み大川自由研究室の取り組み等から、「みさき百科」の再編集や「大川自然博物館資料集」の編集を行う。
 - ・ 「とっておきの美崎」をテーマとした写真募集事業を展開する。
 - ・ 大川に除草や竹藪の整備等を進める。
 - ・ 「大川フォーラム」に向けた企画を進める。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 10 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 10 月 27 日（月） 19:00～21:00
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 10 名
 - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 立命館守山中学校・高等学校 松井氏
 - (4) 守山市
 - 美崎公園 中村指導員
 - 環境政策課 木村課長/井上主査
 - 地域振興課 高山主任/杉本主事/白井囑託員
4. 会議概要
 - (1) 今後の夏休み大川自由研究室について（ふりかえり）
 - 《野菜作りに関して》
 - ・ 前回の定例会で、野菜作りの体験で育てる段階から体験できるようにしてみてもどうかという意見が出ていたが、育てる段階から体験してもらうためには、準備や管理が困難であるため難しいのではないかと。
 - ・ クイズや探し物形式にすることで、子どもたちは自分でその野菜を探したり考えたりするので、自主性が出てきて良いかもしれない。
 - 《竹細工に関して》
 - ・ アンケート結果に、「竹細工を作りたい」という意見が子ども達から出ていた。子どもの年代によっては、竹細工の遊びだけでなく、作成の段階からの体験も可能かもしれない。
 - ・ 子どもだけでなく、親子で楽しめる工夫を考えていくと良いかもしれない。大人も夢中になると思う。
 - 《手持ちのメモに関して》
 - ・ メモ帳にメモをしている子どもを見る場面がいくつもあり、メモ帳を渡したことは本当に良かった。しかし、来年度からメモ帳を渡すだけでなく、ハンドブックのような資料を渡しても良いかもしれない。より丁寧に学習することができるし、ハンドブックのような資料に直接メモができるようになり、子どもたちもメモがより取りやすくなる。
 - (2) フォーラムの開催に向けて
 - ・ 例年 2 月に開催されている「大川フォーラム」について、開催時期の確認を行った。開催時期は例年通り 2 月を予定。次回の 11 月定例会でフォーラムの具体的な内容を検討していく。
 - (3) 写真募集事業について
 - ・ 美崎の自然や生活、自治会事業などを写真媒体募集で記録し、広く共有するとともに後世にも残すことを目的とする。特にテーマを定めていないが、花や鳥などの動植物、風景、行事や催し、生活や事業活動などを、末永く記録しておきたい「とっておきの美崎」の写真を募集する。
 - ・ 詳しい内容は次回以降の定例会で検討を進めていくこととする。
 - (4) その他
 - 《フリートーク》
 - ・ 情報発信機能として、ウェブの活用を検討していくべき。立命館の学生との連携も考えられる。
 - ・ フォーラムをフェスタのようなお祭り感覚でやってみてはどうか。

- ・ 地域内での連携を強化していくべき。
- ・ 連続性のある取り組みを展開していきたい。

《竹林(竹藪)について》

- ・ 市外や県外からたけのこを取りに来ている人が多く見受けられる。問題は、たけのこを取って帰られることよりも、たけのこの皮などのゴミが地域に捨てられてしまっていることである。竹林を守っていくためにも、この竹林も『子どもたちの環境学習の場』として活用することで、たけのこを取りに来る方々にも理解が得られるのではないだろうか。

《次回開催日》

- ・ 次回開催日は11月25日(火)に決定。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 11 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 11 月 25 日（火） 19:00～21:00
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 10 名
 - (2) 京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 守山市
 - 美崎公園 中村氏
 - 環境政策課 井上主査
 - 地域振興課 高山主任/杉本主事
4. 会議概要
 - (1) 大川フォーラムに向けて
 - ・ フォーラムの開催日程を決定した。開催日は 2 月 7 日(土)。
 - ・ フォーラムのおおまかな内容を確認し、共有した。詳細や当日のスケジュールについては次回定例会で詰めていくことにする。
 - ・ 今年度のフォーラムの目的は、これまでの大川プロジェクトの取り組みや活動の実績や今後の課題の面から総括するとともに、新たな発展ができれば良いと考えている。
 - (2) 守山まると活性化とあわせて
 - ・ 現在速野学区でも取り組みが進められている「守山まると活性化」について、大川のこの取り組みと整合化できるところは整合化できれば良い。
 - ・ まると活性化に合わせて、今浜との協調で花の回廊構想を進めていきたい。ハナミズキや四季折々の様々な花木が楽しめるように考えている。
 - (3) これからの大川プロジェクトの課題について
 - ・ 再生ゾーンとの連携をどのように図っていくのか。
 - ・ 花回廊を意識して取り組んでいくために、美崎公園や他の自治会との協力関係やネットワークを構築していかなければならない。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 12 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 26 年 12 月 24 日（水） 19:00～20:30
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 9 名
 - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 立命館守山中学校・高等学校 八木氏
 - (4) 守山市
 -
 - 環境政策課 木村課長
 - 地域振興課 坪内課長/高山主任/杉本主事/白井囑託員
4. 会議概要
 - (1) 伊藤自治会長あいさつ
 - ・ 今年度のフォーラムの目的としては、平成 23 年度から始まった大川プロジェクトの取り組みを、実績や今後の課題の面から総括するとともに、新たな連携や協力関係を構築していき、取り組みの強化を目指したい。
 - ・ また、昨年度から取り組みが進んでいる「大川周辺の自然環境保全&環境学習プロジェクト」などの守山まるごと活性化の活動と整合化ができれば良いと考えている。
 - (2) まるごと活性化について
 - ・ 美崎自治会は「大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト」に役割分担を受けて取り組んでいるようだが、役割分担が「自治会」で区切られているだけであって、他の自治会との連携がとれていないように感じる。
 - ・ 自治会同士での連携を深めて、新たな取組体制を考えていかないといけない。「
 - (3) フォーラムについて検討
 - ・ 伊藤自治会長が作成した開催案、構成案をもとに修正や補足を行った
 - ・ 第一部「活動報告」の『取り組みの意義と注目点』を幼稚園の歌の発表に変更した。
 - ・ パネラーやコメント役として参加していただける方を探す。立命館守山の学生や高谷先生の名前があげられた。
 - ・ 終了時刻を 16:00 で予定していたが、16:30 に変更した。

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 1 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 27 年 1 月 26 日（水） 19:00～20:30
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 10 名
 - (2) 京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 立命館守山中学校・高等学校 八木氏
 - (4) 速野幼稚園 奥村園長
 - (5) 守山市
 - 環境政策課 木村課長/井上主査
 - 地域振興課 坪内課長/高山主任/白井囑託員
4. 会議概要
 - (1) 伊藤自治会長あいさつ
 - ・ 第 4 回大川フォーラムに向けて最終の打合せ、確認となる。
 - ・ 開催案を 12 月時点から調整、修正、資料構成、開催要領、講演、パネラー依頼済状況確認
 - (2) フォーラムについて最終確認

伊藤自治会長が作成した開催案、構成案をもとに各役割の発表者、担当者による準備状況、説明シートの集約状況等を確認し合う

活動報告各発表者（担当者）

 - 「夏休み大川自由研究室」…大川自然博物館研究会 永井氏
パワーポイントシート集約済
 - 「大川の水質浄化への取り組み」…立命館守山高校サイテック部 八木先生
構成内容確認→シート集約後、安藤先生、地域振興課へ
 - 「速野幼稚園今年度の取り組み」…速野幼稚園 奥村先生
パワーポイントシート集約済
 - 「大川プロジェクト取り組みの総括と今後の展開」…美崎自治会 伊藤自治会長
使用イラスト照会、新川制作中（高山）
 - 「まるごと活性化の取り組み」…地域振興課

※制作中のものは完成次第、地域振興課経由→安藤先生 資料集作成

その他、スケジュール等確認（当日 10:00 より会場設営）

【件名】 平成 26 年度大川プロジェクト 2 月定例会議 『美崎寄り合い』

1. 日時 平成 27 年 2 月 23 日（水） 19:00～20:30
2. 場所 美崎自治会館
3. 参加者
 - (1) 美崎自治会 伊藤自治会長他 6 名
 - (2) 京大生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 安藤氏
 - (3) 速野幼稚園 奥村園長
 - (4) 守山市
 - 環境政策課 木村課長/井上主査
 - 地域振興課 高山主任
4. 会議概要
 - (1) 伊藤自治会長あいさつ
 - ・ フォーラム対応お礼
 - ・ 120 名余の参加、従事で予定どおり無事実施できたこと
美崎以外の参加者も多く、より全市的な視野をうかがうことができたこと
 - (2) フォーラムアンケートの解析
アンケート 49 件回収、大川再生ゾーン、新川河畔林(竹やぶ)の整備、活用イメージに関しては全て賛同意見であり方向性に確信を持てる。
 - (3) 地域での農業展開について動向論議、意見交換
 - ・ 田はある程度の規模を有しないと経営的には成り立たない。
 - ・ 兼業農家の継続：農家がある地域は安定感が感じられる
メロン、夏、冬野菜など兼業はハウスや設備の回収あるが成立しやすい。
休耕地の拡大が心配要因であり課題
最近、女性グループや高齢者に農地借用の希望者増える傾向アリ
但し、家庭菜園感覚で管理が無責任であれば虫害など周囲に悪影響が懸念される。
子育て世代の女性が生活を想い魅力的に映る地域が理想的か？
美崎は半農半漁の歴史があり、自給力が強いと思う
まちづくりには、農業のあり方も有効に位置づけ、守山市は兼業農家の立地に好条件であることを強みにしたアイデアを高めることも一考する必要アリと思う。
 - (4) その他
湖南市バンブーハウス（竹やぶ整備の先例）…新川のイメージ策定に参考になるか？…視察見学等検討

「大川フォーラム」アンケート

アンケートのお願い

本日は大川フォーラムにご参加をいただきありがとうございます。大川活用プロジェクトでは引き続き取り組みを進めていきます。つきましては、下記のアンケートにご協力をお願いします。【大川活用プロジェクト】

問1. あなたについてお答えください(○で囲んでください)。

- ・男 女： 男 女
- ・居住地： 美崎 美崎以外の速野学区 その他
- ・年 齢： 10歳代以下 20～30歳代 40～50歳代 60歳以上

問2. 「夏休み大川自由研究室」についてお聞かせください(一つ選んで○をしてください)。

- ①意義があるので続けたらいい。
- ②意義があるとは思えない。
- ③もっと工夫をしたほうがいい。

(ご提案：)

問3. 大川の活用として、上流部は水遊びの出来る川原の整備や実のなる木の植樹、中流部はハナミツキの並木、河口部ではデッキの整備などの計画を進めています。これについてお聞かせください(一つ選んで○をしてください)。

- ①全体として賛成できる。
- ②他の整備を提案する。

(ご提案：)

問4. 美崎公園と大川の間には大きな竹藪(河辺林)があります。新川のこの河辺林(竹藪)の整備・活用策についてご意見をお聞かせください。

問5. その他、自由なご意見をお聞かせください。

【ありがとうございました】

「大川フォーラム」アンケート結果

【問 1. 回答者集計】

→ アンケート回収枚数 49 (参加者約 120 名)

性別		住居地		年齢	
				10歳代以下	8名
男性	33名	美崎	21名	20～30歳代	4名
女性	12名	美崎以外の速野学区	8名	40～50歳代	13名
未回答	4名	その他	16名	60歳以上	22名
		未回答	4名	未回答	2名

【問 2. 夏休み大川自由研究室について】

→ 「意義があるので続けたらいい」…47/49 名 以下工夫についての意見。

- ・ 小学生やそのご家族の方が参加されているが、それ以外(中高大生など)も参加できるようにするべき。(10代以下男性)
- ・ アンケートにあった「顕微鏡で水を見る」などはできると思います。環境教育的程度のものであれば、立命館守山の高校生で教室ができます。(10代男性)
- ・ 多くの子どもたちの参加がみられる中、祖父祖母代の方々の姿が見当たらない。せっかくの機会でもあるので「お年寄り」の参加もできるよう工夫されてはどうか。(40～50代男性※)
- ・ もっと多くの子どもたちが参加すると良いと思います。(60代以上男性)
- ・ 昨年小学6年生だった人に運営を手伝ってもらうことで、中学生になっても大川に関心を持ってもらう。また、運営側になることでこの活動を引き継ごうと思う子どもが増えると思う。(男性)

【問 3. 上流部、中流部、河口部それぞれで進めている整備計画について】

→ 「全体として賛成できる」…48/49 名 以下ご意見。

- ・ 現存する生物の調査、過去に存在した生物の調査をまとめる必要があるのかもしれませんが。特に植樹については、私たち人間にとって有用であると共に、もともとあった植樹とのバランスも考えなければならないと思います。「実のなる木」は成長に栄養分が必要となり、維持管理が必要かと思われます。かつ、鳥害や生態系のバランスもあります。(20～30代男性)
- ・ ある程度の整備は必要と思うが、全面コンクリート張りのように整備しすぎると、逆に人が寄り付かなくなると考えられます。他の自治体の成功例のみならず、失敗例も参考にプロジェクトを進めていてもらいたいです。(20～30代女性)
- ・ ハナミズキは外来種なので、別の日本の在来種から選択して植樹すると良い。(60代以上男性)

【問 4. 新川の河辺林(竹藪)の整備・活用策について】

- ・ 小さな畑、小さな果樹園をつくり、大川の良さを伝える。(10代以下男性)
- ・ 全国的に河辺林のような場所が少なくなってきているので、守山だけでなく全国的に

- 発信できるようにするべき。(10代以下男性)
- ・ 竹をうまく切り、迷路のようにしてほしい。(10代以下女性※)
 - ・ たけのご狩りがしたい。(10代以下女性)
 - ・ 竹藪林に林道をつくって散歩ができるようにする。(10代以下女性)
 - ・ うっそうとした繁みのまま残し、夏の涼の場所とする(蛍がいたら)。肝試し(子供会)でも使えるかもしれない。(20～30代女性※)
 - ・ 里山ならぬ「里竹林」の活用は無理でしょうか。子どもたちを巻き込んだ家族(ファミリー)層に竹林の整備をお願い(手伝い)し、その参加を証に「たけのご狩り」を楽しんでいただく。(証明書等を発行する)(40～50代男性※)
 - ・ 風情ある飲食店を複数作る。竹藪の景観を最大限に活かし、庭園風の場所をたくさん作る。「お茶屋」等和風の建物を作る。「茶道」、「華道」等文化的な活動ができる施設を作る。(40～50代男性※)
 - ・ 竹藪を活用する中で、また自然の中で子どもたちが遊べる場になれば良いと思います。(40～50代男性)
 - ・ 自然の形も残しつつ、活用して行ってほしい。(40～50代女性※)
 - ・ 今回の提案の内容でいいのではないかと思いました。大川周辺をあわせると色々な遊びや学びの環境があるのはいいと思います。(40～50代男性)
 - ・ ある程度間伐して、子どもが自由に入れるようにしてはどうか。(40～50代男性)
 - ・ 自然物(竹等)を活用した遊具の設置や美しい公衆トイレの設置は必要ではないかと考えます。(40～50代男性)
 - ・ 竹藪は撤去した方が良い。(60代以上男性)
 - ・ たけのこが取れる竹藪にしてほしい。(60代以上男性)
 - ・ 夢のようなおとぎの国に思います。竹林とは京都にもあり、大変おもむきのあるものです。(60代以上女性※)
 - ・ 整備中の竹林でまっすぐ立っているたいへんきれいな竹がある。河川跡を示すものとして部分的に残してほしい。(60代以上男性※)
 - ・ できるだけ多くの住民参加を得て進めてください。(60代以上男性)
 - ・ 竹藪を間引き整備し、竹林にすればよい。(60代以上男性)
 - ・ 大いによい。活用してください。(60代以上男性※)
 - ・ 竹藪を残した整備と、取り払った整備で計画を立ててはどうか。(60代以上男性)
 - ・ 竹藪の中に道を作れば良いと思います。緑は残した方がよい。竹藪の中に道があれば自然を感じることができる。(男性)

【問 5. その他、自由なご意見】

- ・ 回廊には花や木を植える。親水公園もつくる。(10代以下男性)
- ・ 純粋に今後どうなっていくのかとても気になります。どんどん進んでいて楽しみです。(10代以下男性)
- ・ インターネットで情報発信ができると良いなと思います。高校生がかなり詳しいので頼ってもらえれば何かできるのでは。(10代以下男性)
- ・ 速野小学校の近くに置いてある遊具のように、美崎の地球市民の森にも遊具を設置してほしい。(10代以下女性※)
- ・ 今後も寄り合いのようなインフォーマルな集まりも含めて、行政、大学、幼稚園、自

治会、地域住民との連携を深めていただきたい。(20～30代女性)

- ▶ 特産物など、観光誘致ができる「シンボル」的な開発(6次産業化)。海外へ輸出できる特産物の開発を、まちをあげて取り組んでいく。(40～50代男性)
- ▶ 水の浄化が何としても不可欠。導水方法の各種検討を頼みます。(60代以上男性※)

- ▶ 色々な取り組みをしてくださりありがとうございます。より多くの方がより関心を持ってくださると良いと思います。「大川フォーラム」に参加させていただいて一層、美崎の良さが分かってきました。

もっともっと多くの方が何らかの形で参加されるとよいと思います。(60代以上女性※)

- ▶ 守山市の理想の地域改革であり、美崎がその先駆けであってください。私たち地元のものも協力を惜しみません。(60代以上女性※)
- ▶ たいへん充実した催物を展開されており、敬意を表します。(60代以上男性)
- ▶ 水の流れる美しい川を。ホタルの飛ぶ環境を。(60代以上男性)
- ▶ 素晴らしいまちづくりを期待します。(60代以上男性)
- ▶ 子供向けの体験教室を夏だけでなく、春や秋にもできればいいなと思います。季節に合わせた遊びや学習方法の違いも良い勉強になると思います。(女性)
- ▶ たくさんの団体が大川プロジェクトに参加しているのに、プロジェクト全員で行っている取り組み(大川を洗浄する等)を行っていないので、プロジェクト全員で行う作業や取り組みを一つでも行うことで絆も深まると思う。(男性)

※地元 = 美崎より参加の方

第4回大川フォーラム 開催要項

1. 開催日時 27年2月7日(土) 13:30~16:30
2. 開催場所 美崎自治会館
3. 開催内容
 - 1) テーマと趣旨
テーマ : 「大川活用プロジェクトの到達点と今後の展開」
開催趣旨 : 平成26年度の取り組みを報告しますとともに、平成23年度から始まった大川活用プロジェクトの取り組みを総括しつつ新たな社会状況や残る課題を踏まえての今後の展開を考えます。
 - 2) 内容とスケジュール
 - 13:30 開会
 - 13:35 第一部「活動報告と今後の展開」
 - ①「夏休み大川自由研究室」の取り組み
 - ・報告 大川自然博物館研究会
参加の子ども代表
速野小学校 中嶋茉海、山田瑞萌
 - ②大川の水質浄化への取り組み
 - ・報告 立命館守山高校サイテック部
小西祥太、黒田恵里奈、佐々木桃、川口裕司
 - ③速野幼稚園今年度の取り組み
 - ・報告 速野幼稚園
 - ④取り組みの総括と今後の展開
 - ・報告 美崎自治会
 - ⑤まるごと活性化の取り組み
 - ・報告 守山市
 - 14:50 休憩
 - 15:00 第二部「大川の取り組みの注目点と意義」
 - ・コメンテーター 高谷好一京大名誉教授
 - 15:20 第三部「今後を語るパネルディスカッション」
 - ・パネラー 濱野優貴濱野優貴立命館高校サイテック部員
高谷好一京大名誉教授
山本富夫速野学区ふるさとづくり委員長
宮本和宏守山市長
伊藤潔美崎自治会長
 - ・コーディネーター 安藤和雄京大東南アジア研究所
 - 16:30 閉会

第4回大川フォーラム チラシ

参加費 無料

第4回 大川フォーラム

テーマ **大川活用プロジェクトの到達点と今後の展開**

美崎自治会、京大大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所、立命館守山中学校・高等学校、市で構成する大川活用プロジェクトでは、市内北部を流れる準用河川大川を舞台とし、河川の環境保全とまちづくり活動に取り組んでいます。フォーラムでは、昨年8月に開催した「夏休み大川自由研究室」の成果など平成26年度の取り組みを報告するとともに、これまでの取り組みを総括し、これからの展開を探ります。また、参加者の皆さんと北部地域の活性化の具体策についても意見交換を行います。ぜひご参加下さい。

とき
平成**27**年**2**月**7**日(土)

ところ
美崎自治会館 (守山市今浜町2761-35)

受付開始 (13:00~)
開会 (13:30)
第1部 活動報告 (13:35~)

- ① 「夏休み大川自由研究室」の取り組み 大川自然博物館研究会代表 子ども代表
- ② 大川の水質浄化への取り組み 立命館守山高等学校 サイテック部
- ③ 幼稚園での取り組み 速野幼稚園
- ④ 取り組みの総括と今後の展開 美崎自治会
- ⑤ まるごと活性化の取り組み 守山市

第2部 大川の取り組みの注目点と意義 (15:00~)
コメンター：高谷好一（京都大学 名誉教授）

第3部 今後を語るパネルディスカッション (15:20~)
コーディネーター：安藤和雄（京大大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所 准教授）
パネラー：立命館守山高校、山本富夫（速野学区ふるさとづくり委員長）
高谷好一（京都大学 名誉教授）、守山市長、美崎自治会

同時開催

「とっておきの美崎」
写真展

開催場所：美崎自治会館



主催：大川活用プロジェクト

問い合わせ 守山市地域振興課 電話：582-1165

編集後記

大川活用プロジェクト平成26年度活動報告書が、大川フォーラムでの発表とパネルディスカッションを骨格にして出来上がりました。平成26年度活動報告書をひらいていただければご覧いただけるように、発表者の皆さんにご無理を言って、発表スライドなどに文章をつけてもらいました。発表のスライドに短くても文章があればより理解が深まるという配慮からの私からの皆さんへのお願いでした。

大川フォーラムも今回で4度目となりました。守山市が地域の自治会の主体性を重視して取り組まれている「守山まるごと活性化」事業の展開とともに、大川活用プロジェクトに関する他の自治会の方々など外からの関心が高まっています。「夏休み大川自由研究室」への参加への希望者が美崎以外からも多く寄せられるようになってきているとも聞いています。本年度の第4回大川フォーラムの出席者約120名の半数前後が美崎以外の方々だったという数字がこれらをよく示しています。来年度からは大川の具体的な整備計画が実現していくことになりました。ますます大川活用プロジェクトへの美崎以外の地域の人たちの注目が集まっていくことでしょう。

発表者の皆さんに文章を寄せてもらったのは、大川活用プロジェクトに関心はあるが大川フォーラムに参加できなかった美崎や美崎以外の方々に、平成26年度活動報告書を通じて大川活用プロジェクトの活動内容を是非知ってもらいたいという意図からです。そして、私は大川活用プロジェクトの方式が「守山まるごと活性化」の一つの取組の先行モデルとなればと密かに期待しています。私はバングラデシュで行政、NGOとともに住民参加による農村開発に地域の人々とともにアクション・リサーチ（実践型地域研究）として長年取組んできました。大川活用プロジェクトはまさに美崎のみなさん、特に、自治会が主体的にイニシアティブをとって実施されています。大川フォーラムという発表会が継続的に企画実現されている地域発展の取組はまさに住民主体の参加型開発の一つの具体的な誰もが実現できたらと思っているモデルとなっています。私自身が専門としている農村開発研究や地域研究という学術分野でも、大川活用プロジェクトには学ぶところが多く、大川活用プロジェクトで示されている「守山美崎モデル」を学術の分野でも是非発信していけたらという希望を抱いています。

来年度から具体的な目に見えた成果が美崎の人々の前に現れます。大川活用プロジェクトは新しい展開を見せることとなります。「大川だより」「みさき百科」は、平成26年度は休刊となりました。大川プロジェクトの活動を同時進行的に知ってもらう「大川だより」や美崎の郷土としての「地域の個性」を自覚する上でも「みさき百科」を平成27年度には是非再開したいと私は願っています。こうした点を踏まえて、一年一年の活動を整理し記録に残しておくことは現在と未来、とりわけ来年度の計画作成にとって大変重要となります。大川フォーラムが成功裏に終わり、平成26年度大川活用プロジェクト活動報告が作成され出版できることを私は大変喜ぶとともに誇りに思います。本報告書のもとになった大川フォーラムでの発表者、原稿を寄せていただいた執筆者の皆さん、編集に全面的に協力していただいたレカボラ編集舎の小野寺佑紀さんには大変感謝いたします。またこの報告書を手にとられた皆様、是非、大川活用プロジェクトに今後とも関心を抱いていただき、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

安藤和雄（2015年3月20日）

平成26年度大川活用プロジェクト活動報告書

発行日	平成27年3月31日
発行	大川活用プロジェクト 滋賀県守山市今浜町 2761-35 電話：077-585-1019 メール：(守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp
編集	安藤和雄
編集協力	小野寺佑紀（レカボラ編集舎）
出版協力	京都大学 地（知）の拠点事業（KYOTO未来創造拠点整備事業 — 社会変革期を担う人材育成） 京都大学東南アジア研究所実践型地域研究推進室 守山市役所



第4回大川フォーラム「とっておきの美崎写真展」

発行：
大川活用プロジェクト
滋賀県守山市今浜町 2761-35
電話：077-585-1019
メール：(守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

ISBN978-4-906332-28-1